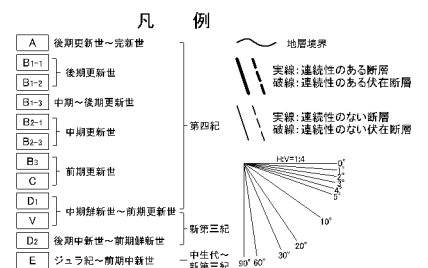
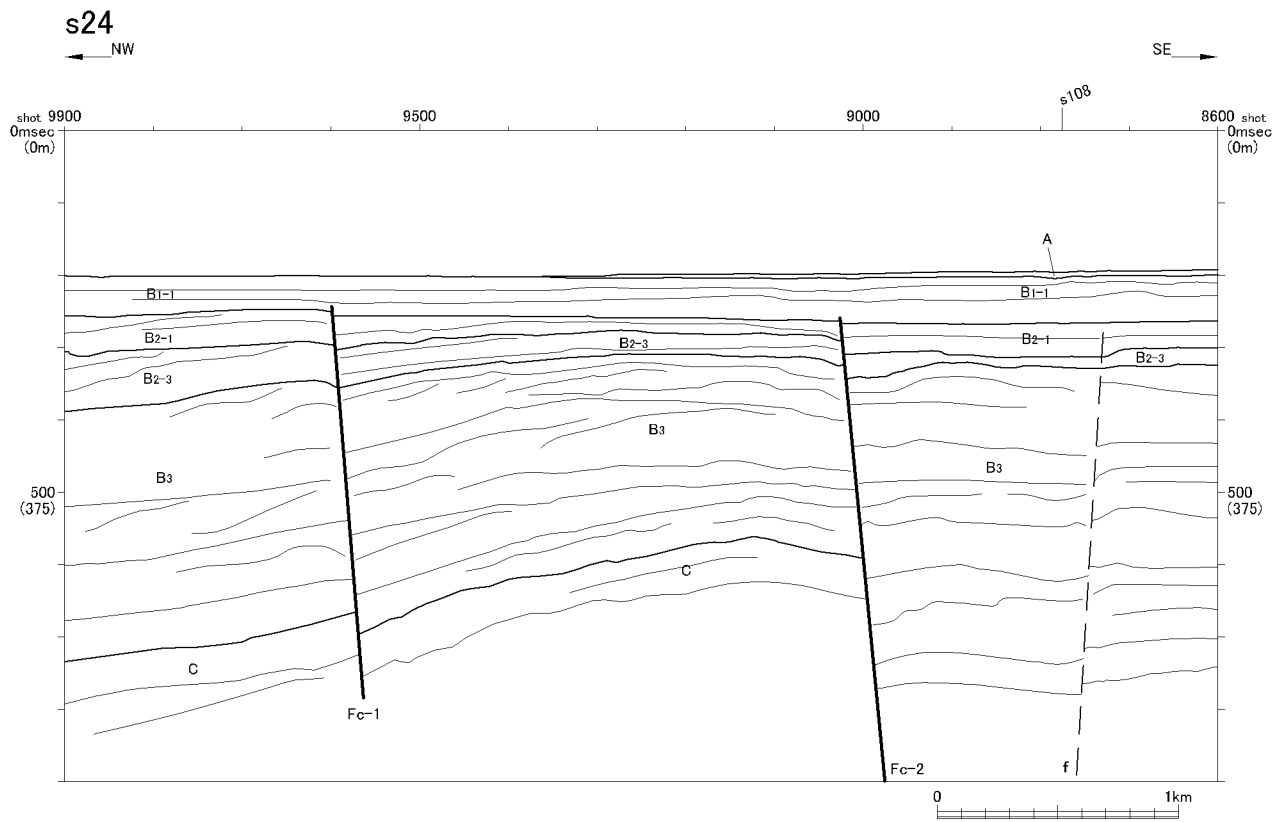
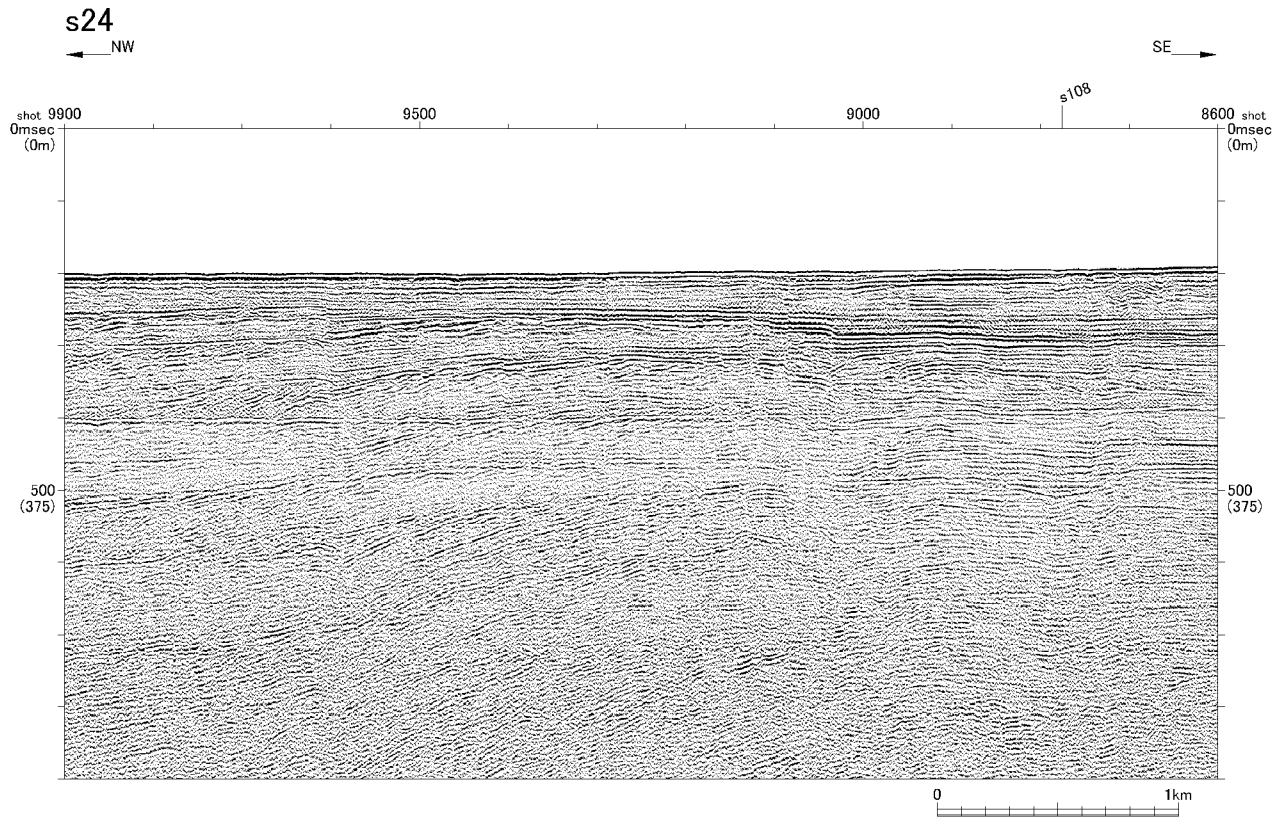
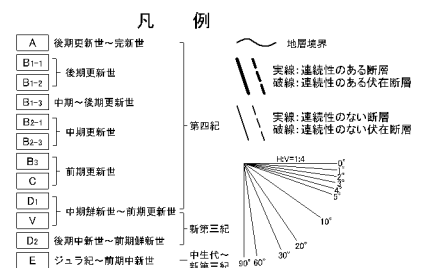
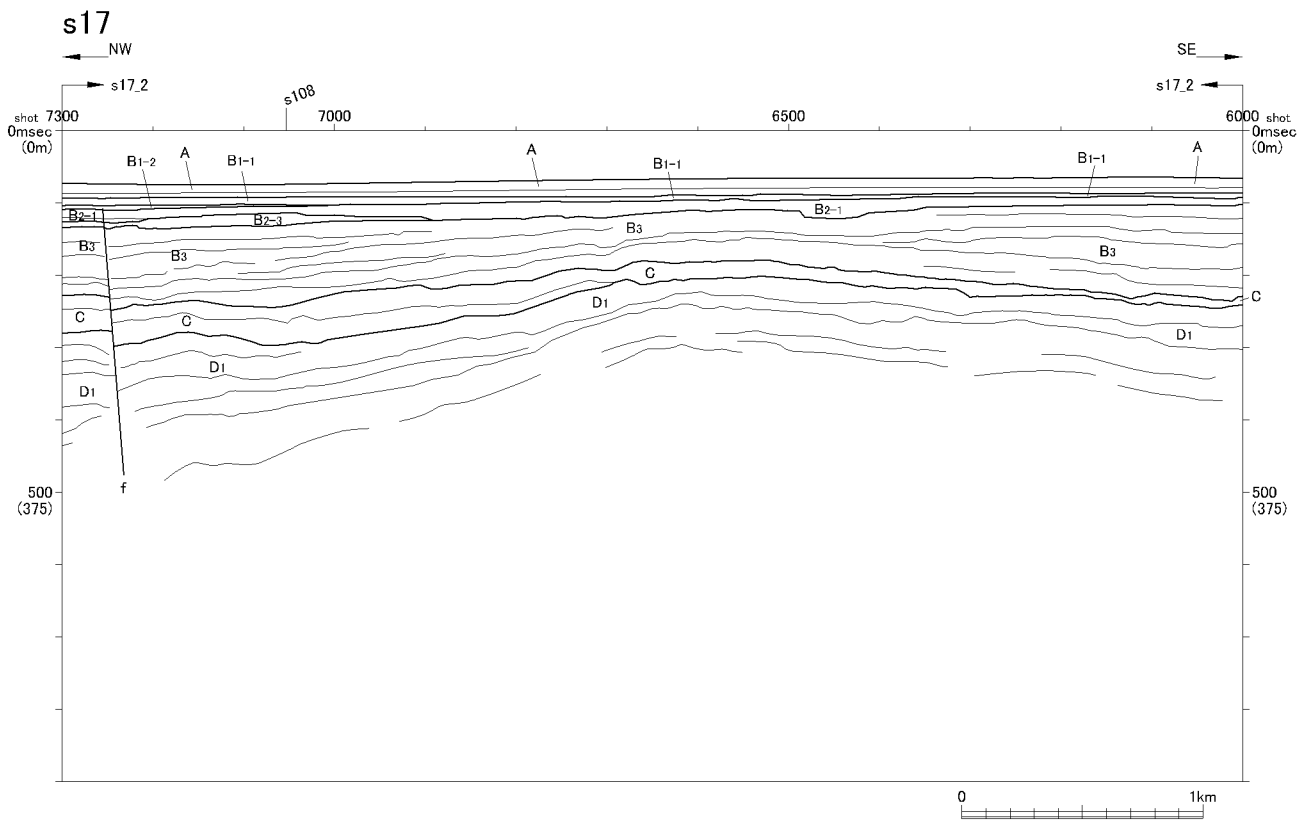
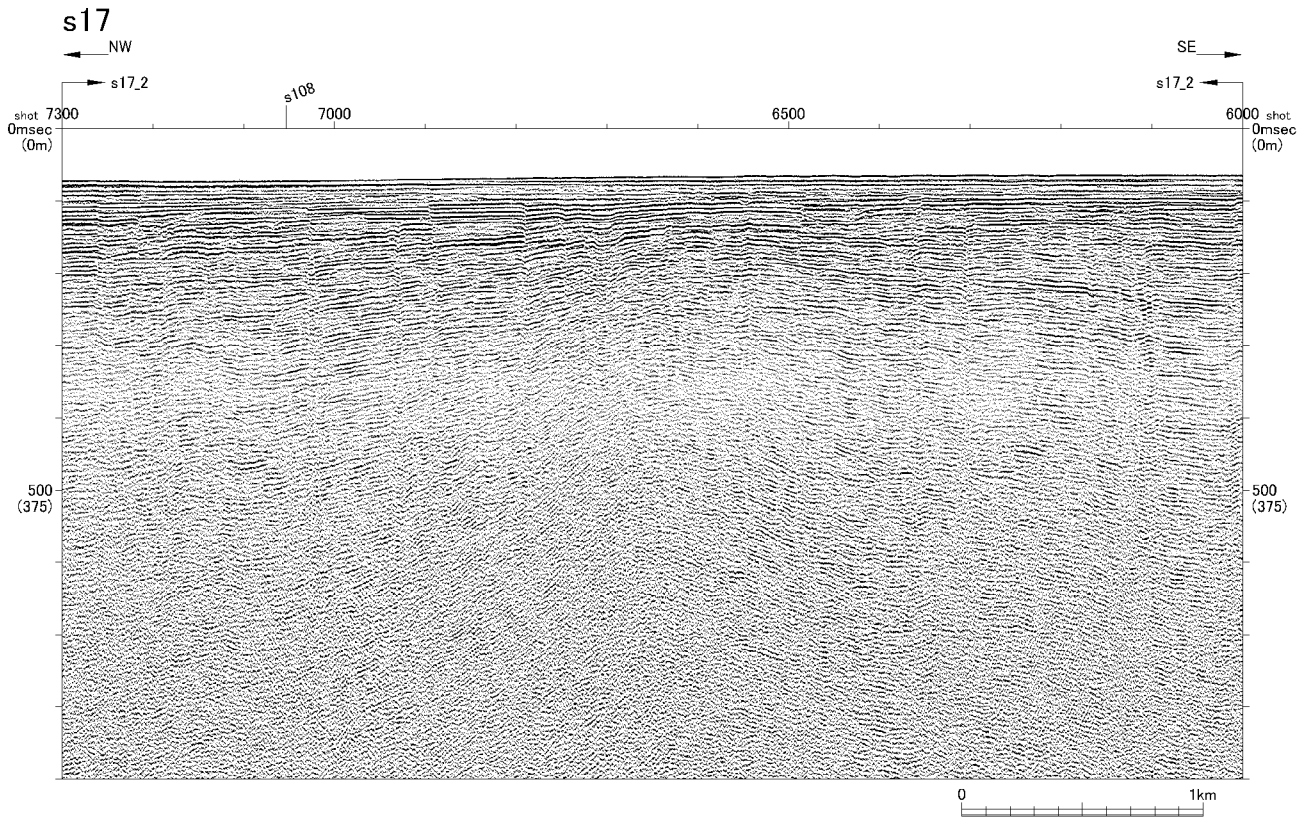


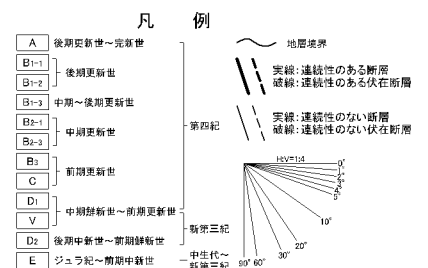
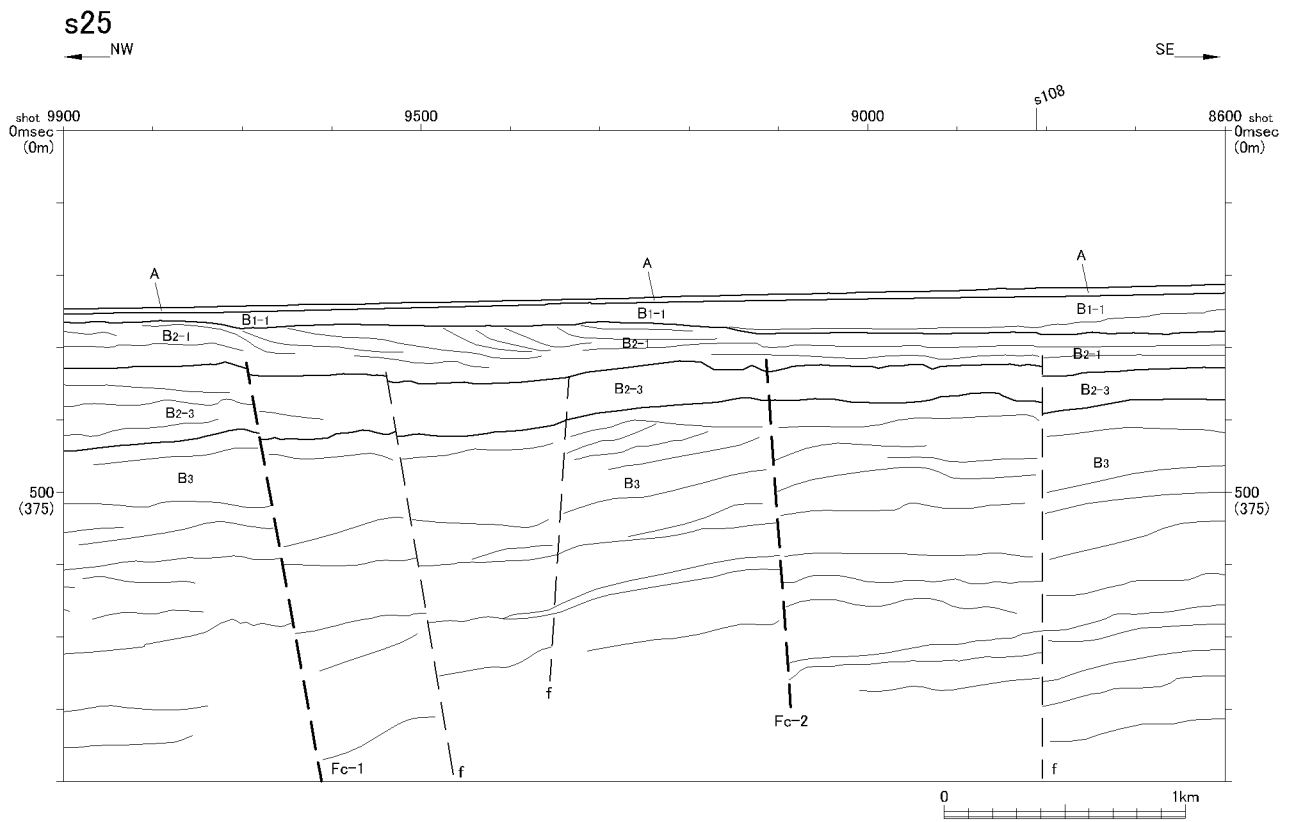
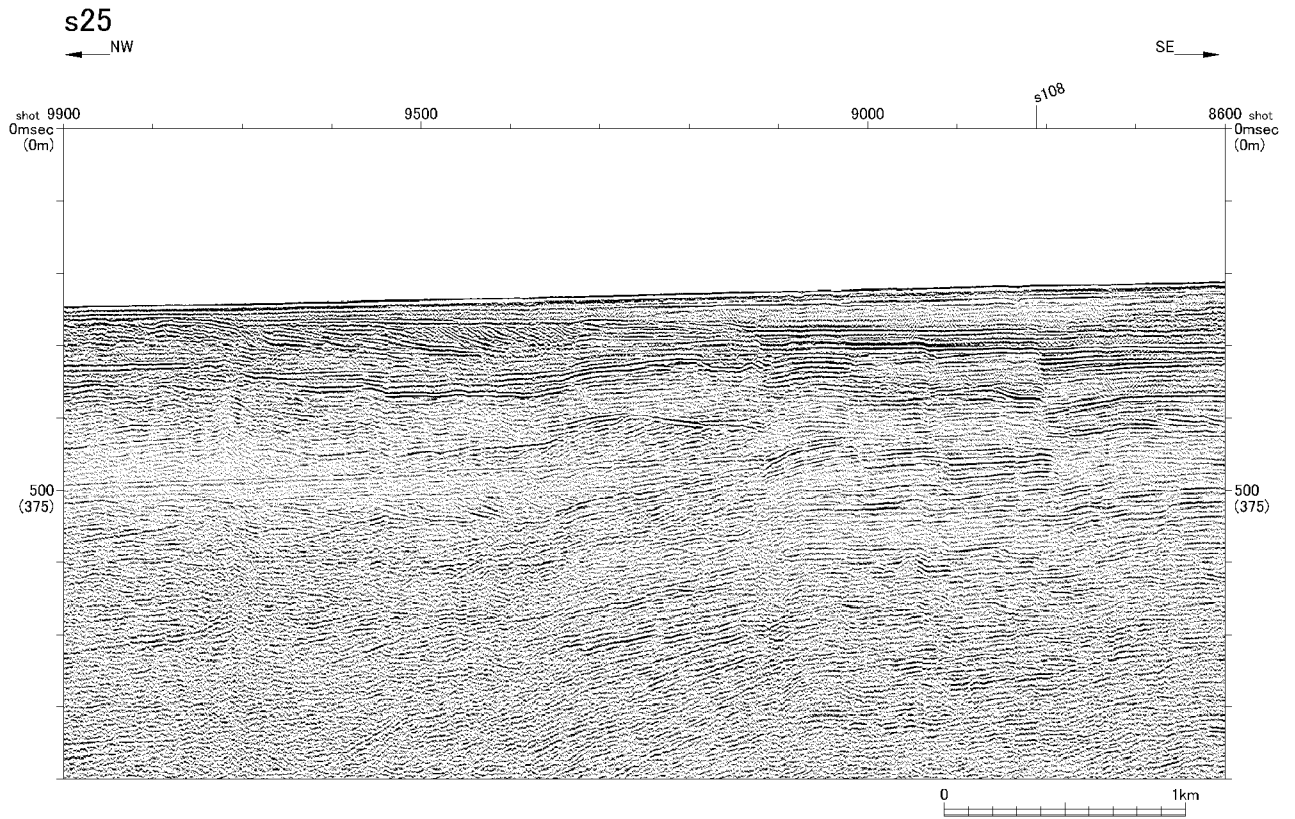
第1.2.7.3.2.103図(1) F-C断層の音波探査記録断面図 (s19測線)



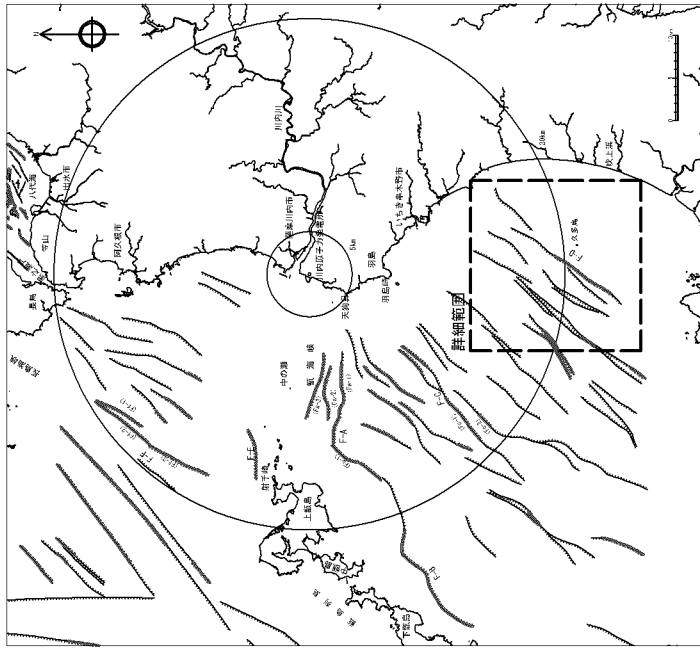
第1.2.7.3.2.103図(2) F-C断層の音波探査記録断面図 (s24測線)



第1.2.7.3.2.103図(3) F-C断層の音波探査記録断面図 (s17測線)

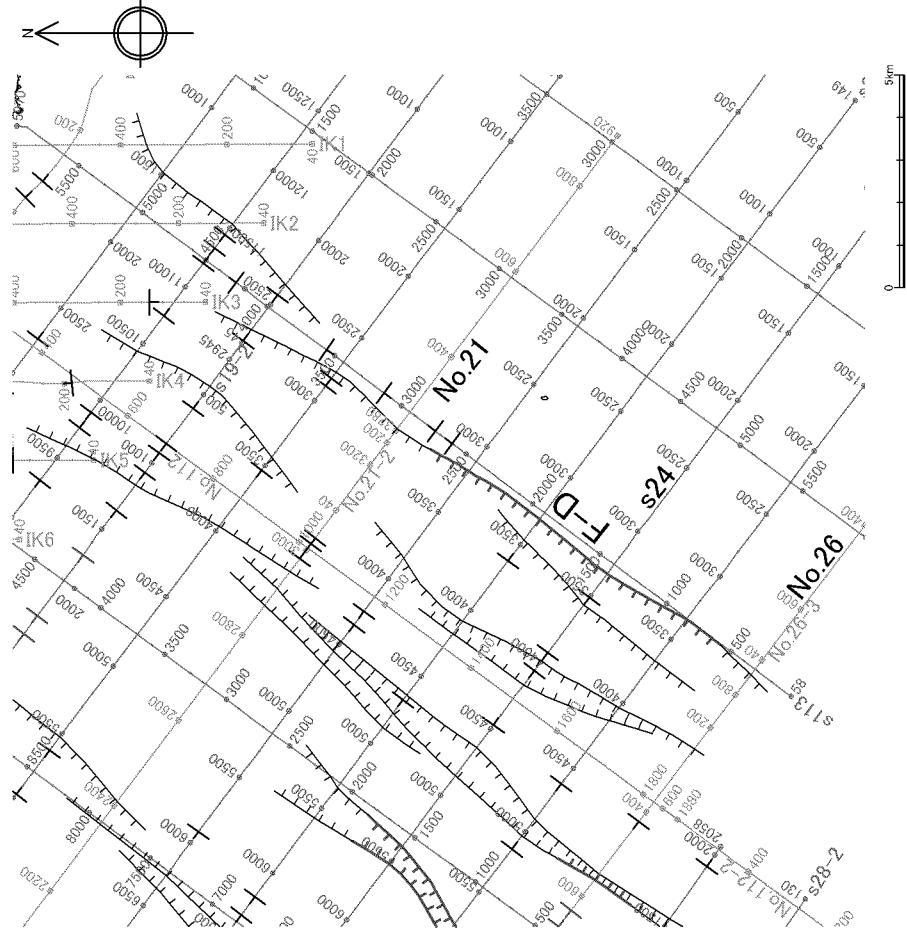


第1.2.7.3.2.103図(4) F-C断層の音波探査記録断面図 (s25測線)

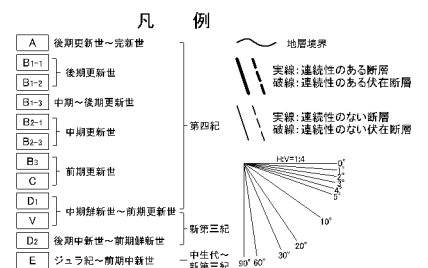
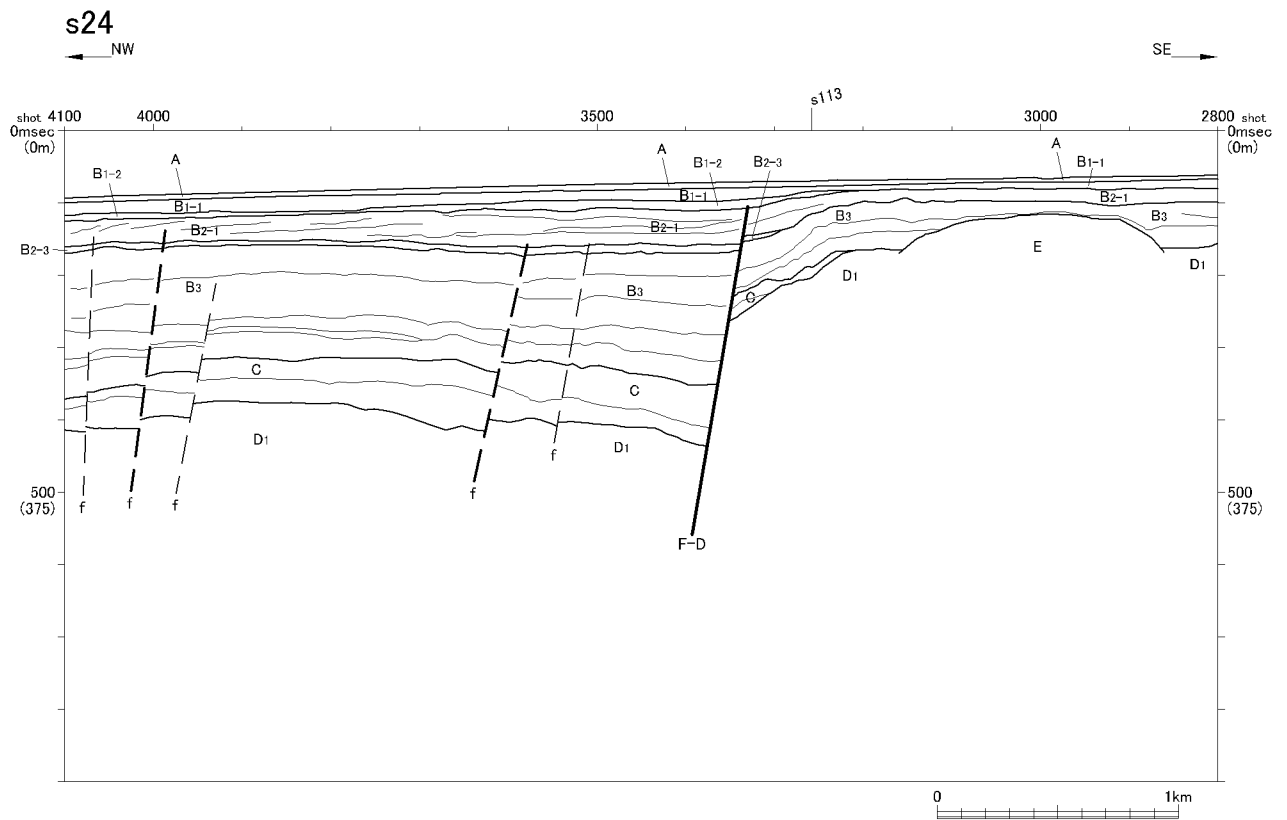
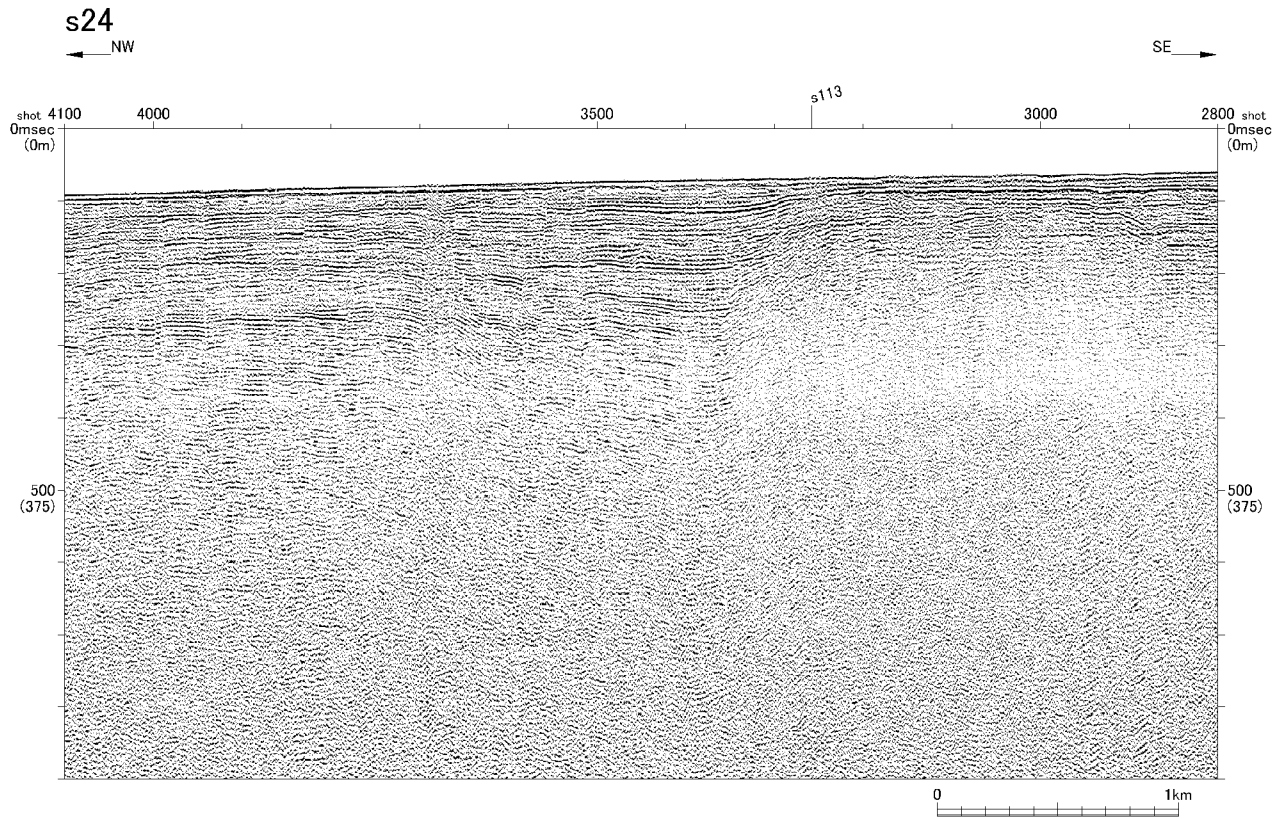


凡 例

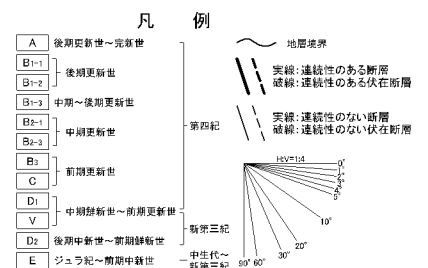
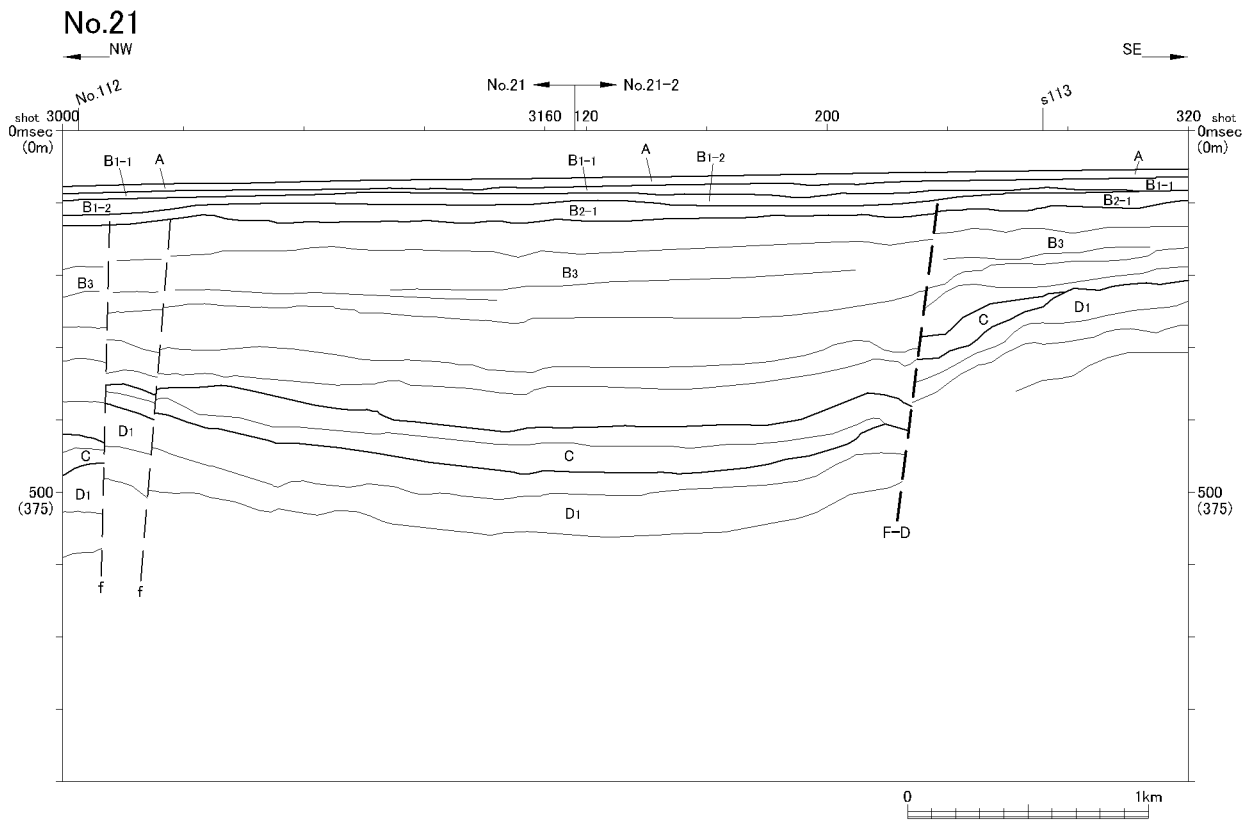
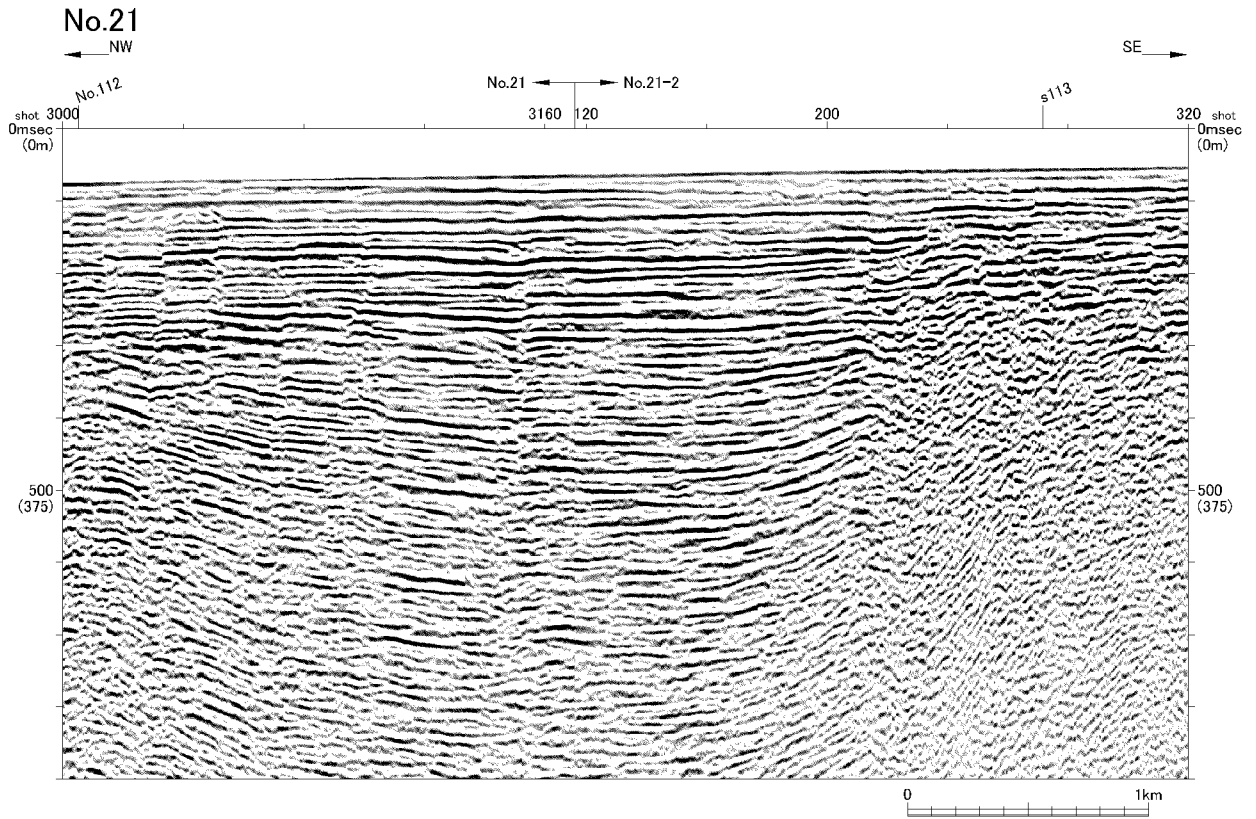
- |—|—| 連続性のある断層
- |—|—| 連続性のある伏在断層
- +—+—+ 連続性のない断層
- +—+—+ 連続性のない伏在断層
- 九州電力網によるマルチチャネル音波探査測線 (G1ガン、ウォーターガン)
- 九州電力網によるシングルチャネル音波探査測線 (ウォーターガン、スバーカ)



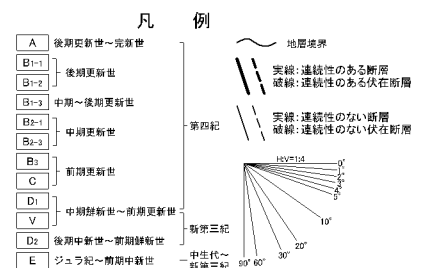
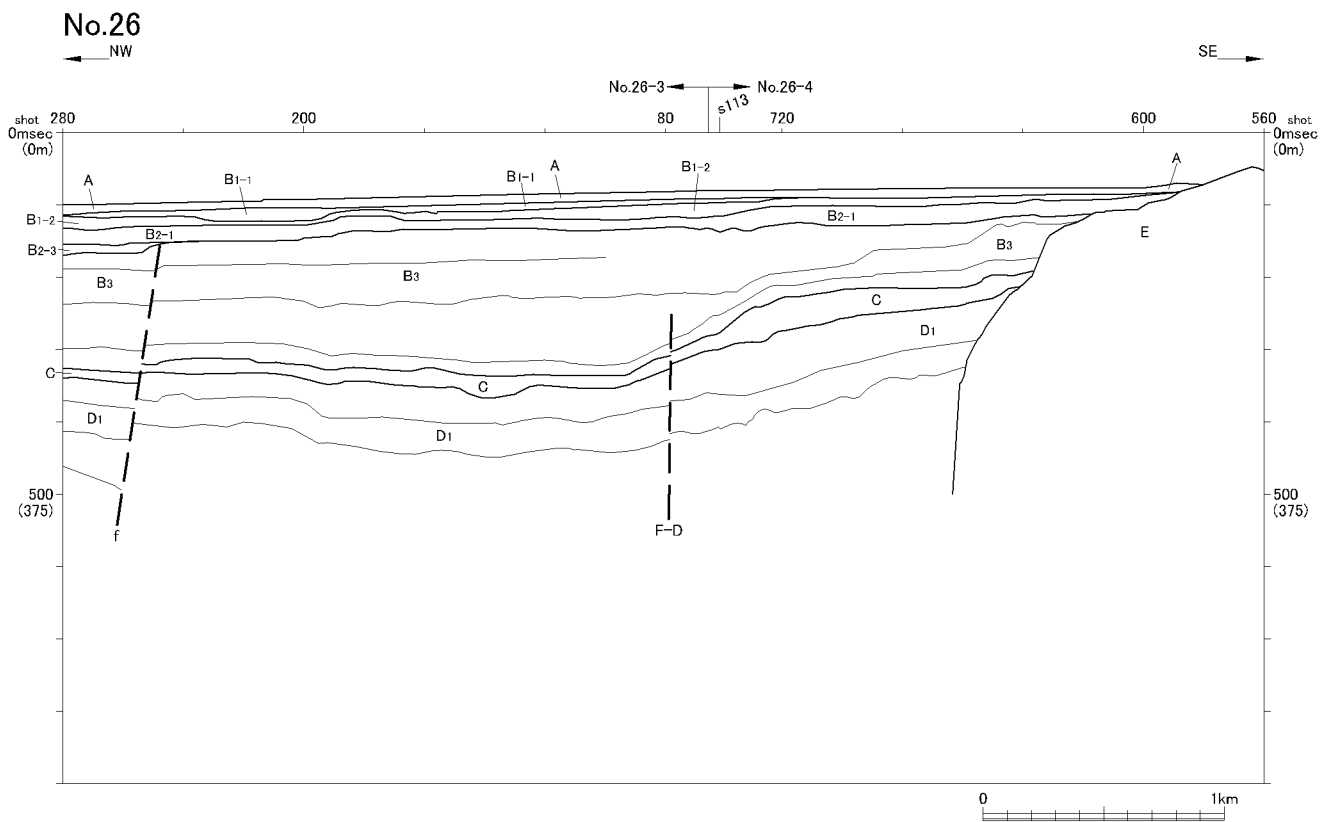
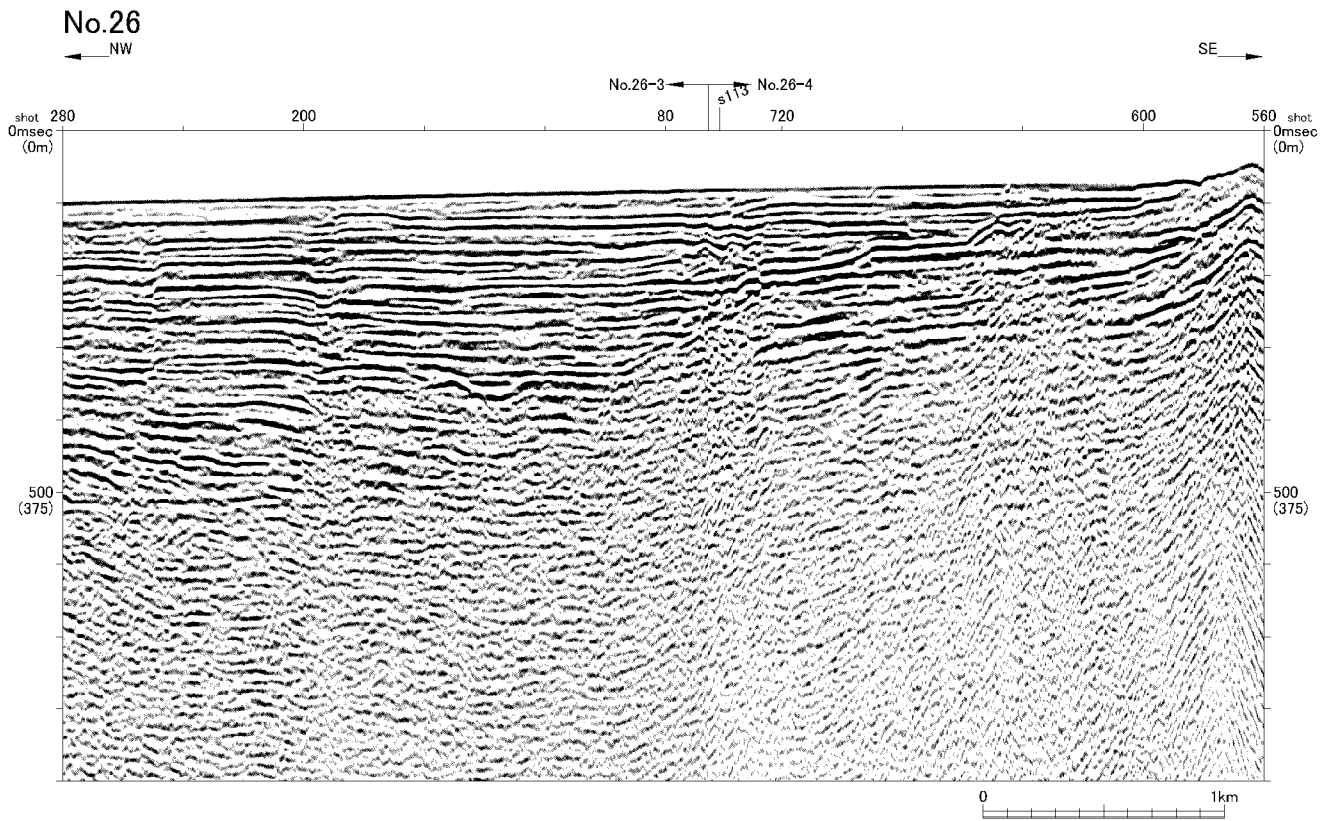
水涯線は、国土地理院発行の数値地図25000空間于一タ基盤(熊本・鹿屋島)を編集したものである。



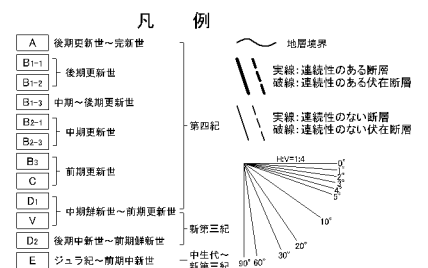
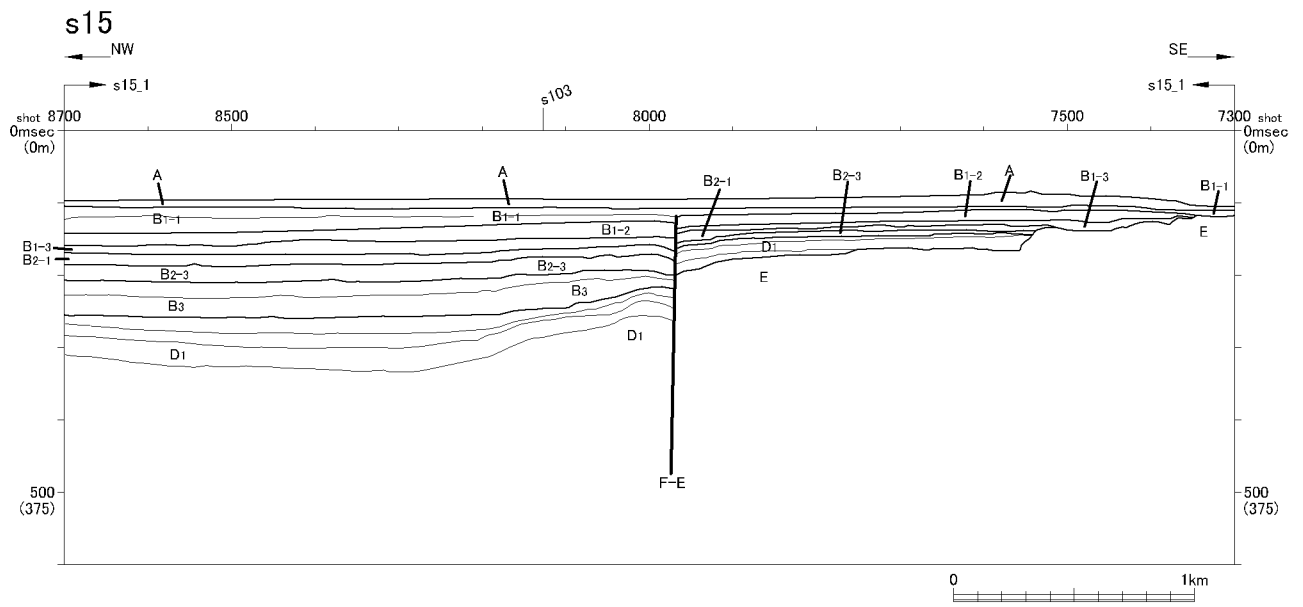
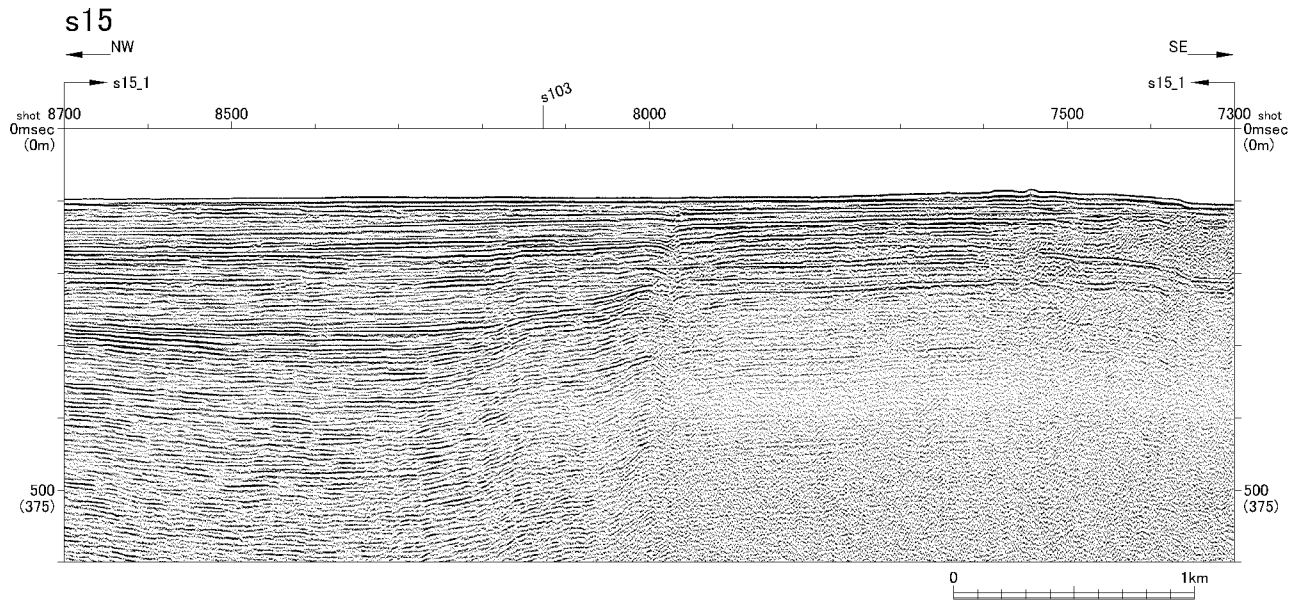
第1.2.7.3.2.105図(1) F-D断層の音波探査記録断面図 (s24測線)



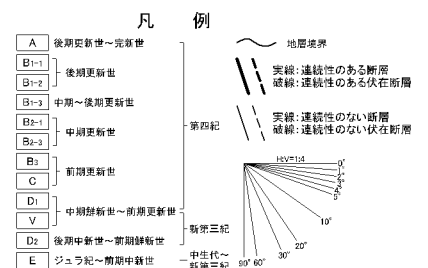
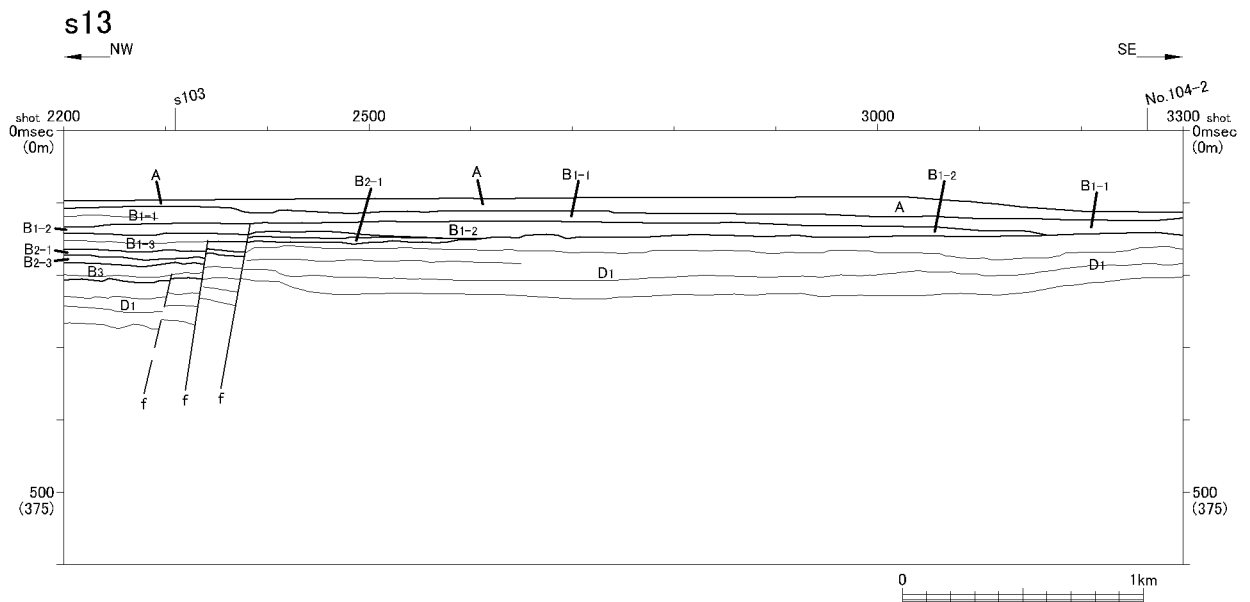
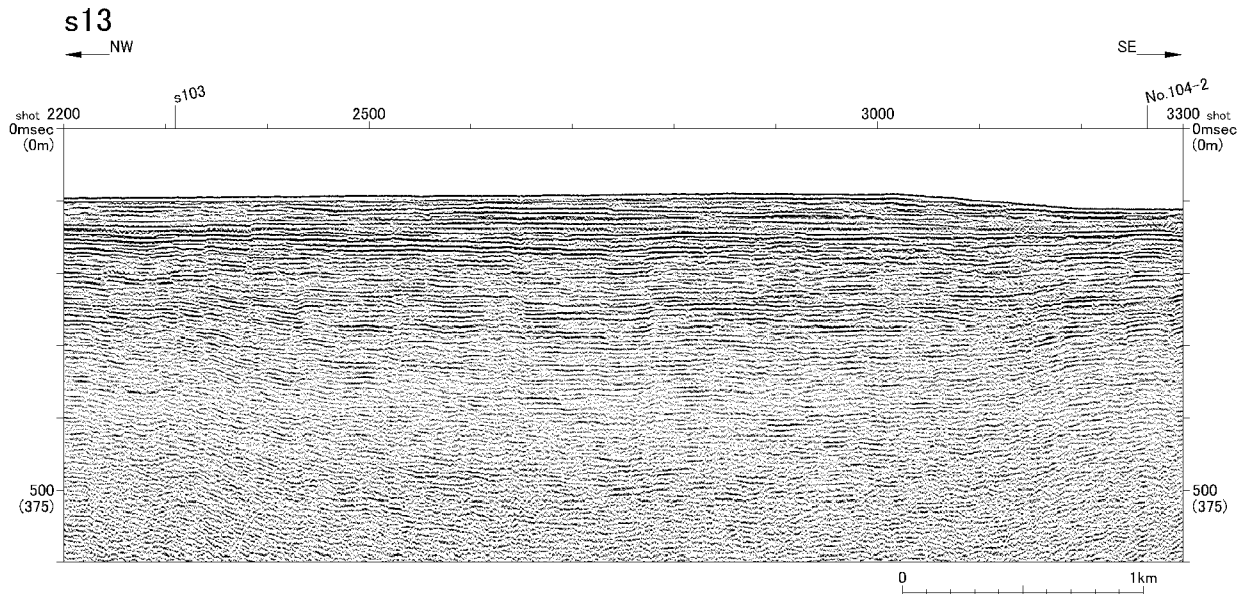
第1.2.7.3.2.105図(2) F-D断層の音波探査記録断面図 (No.21測線)



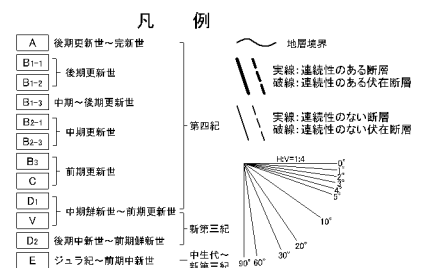
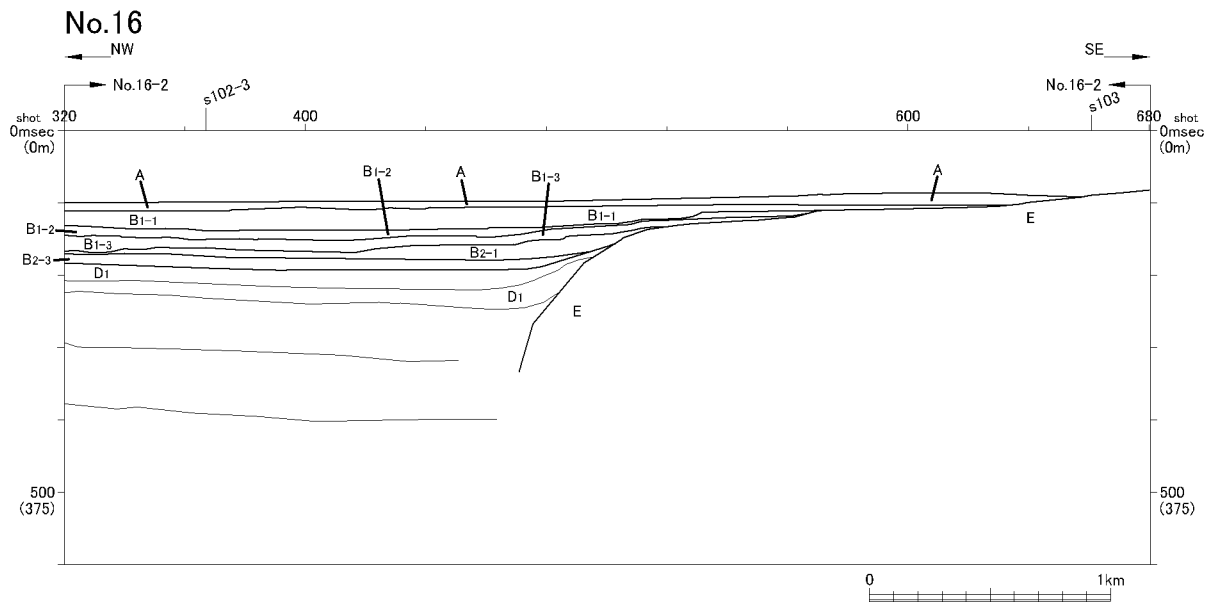
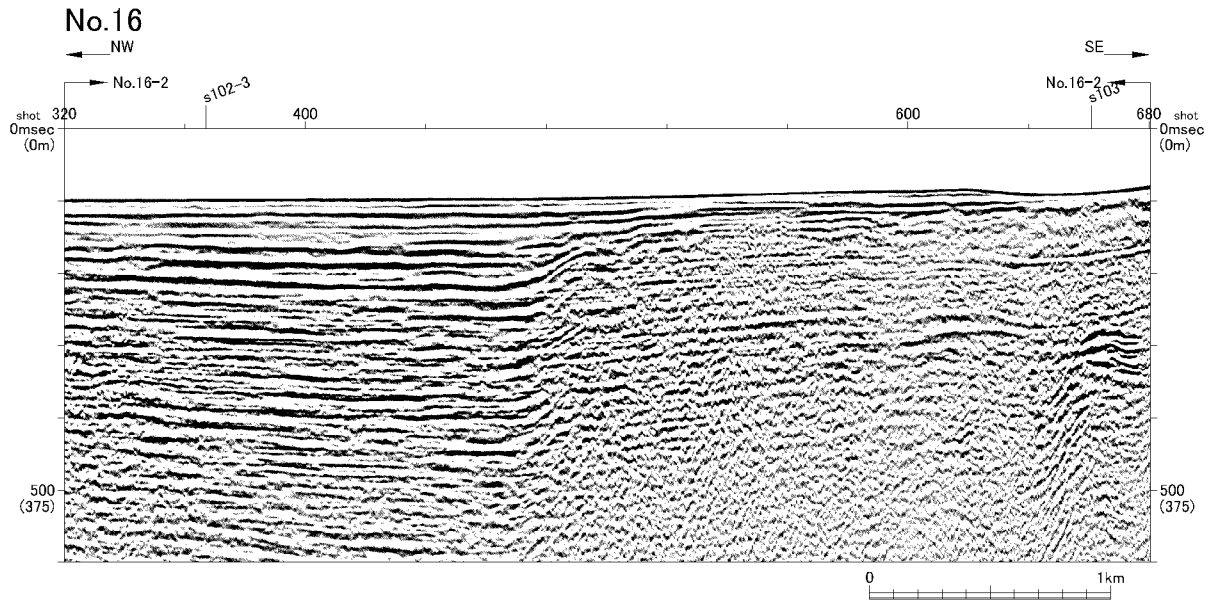
第1.2.7.3.2.105図(3) F-D断層の音波探査記録断面図 (No.26測線)



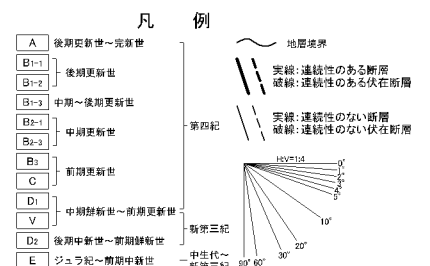
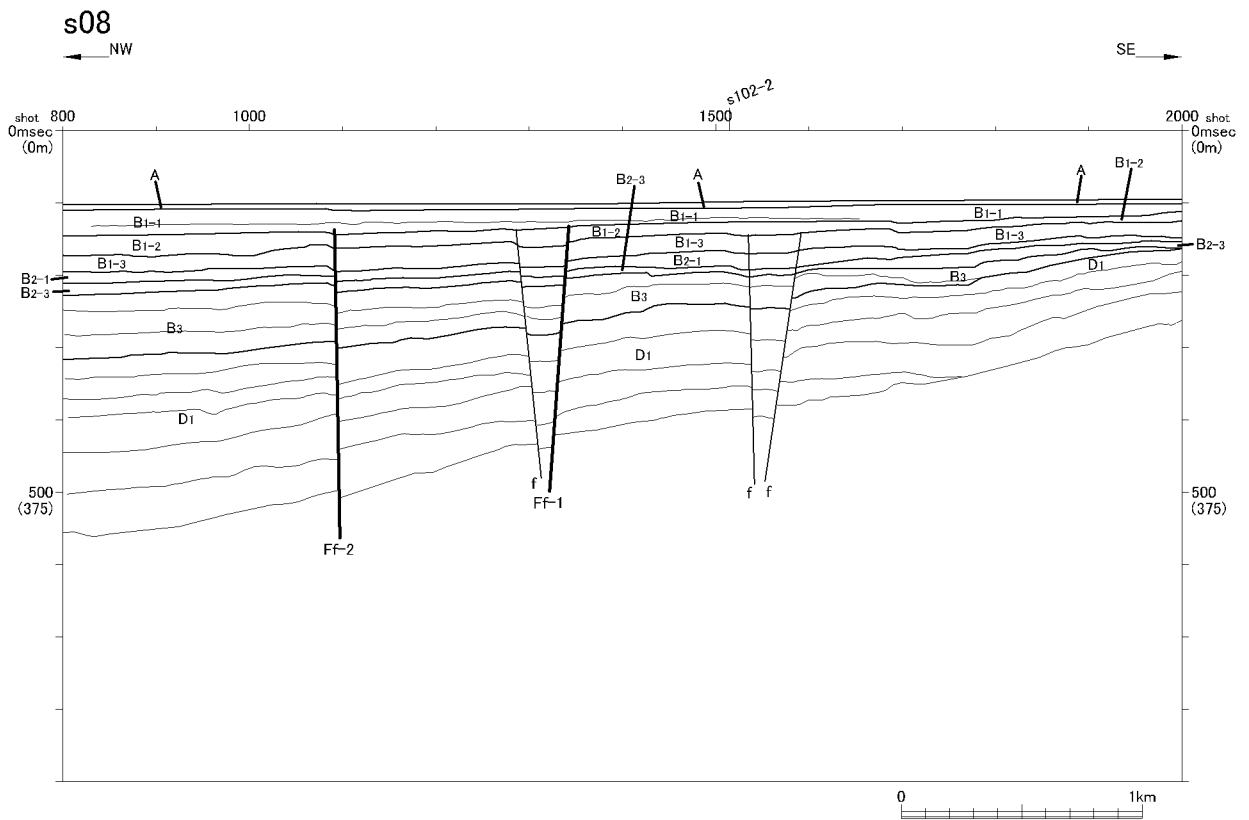
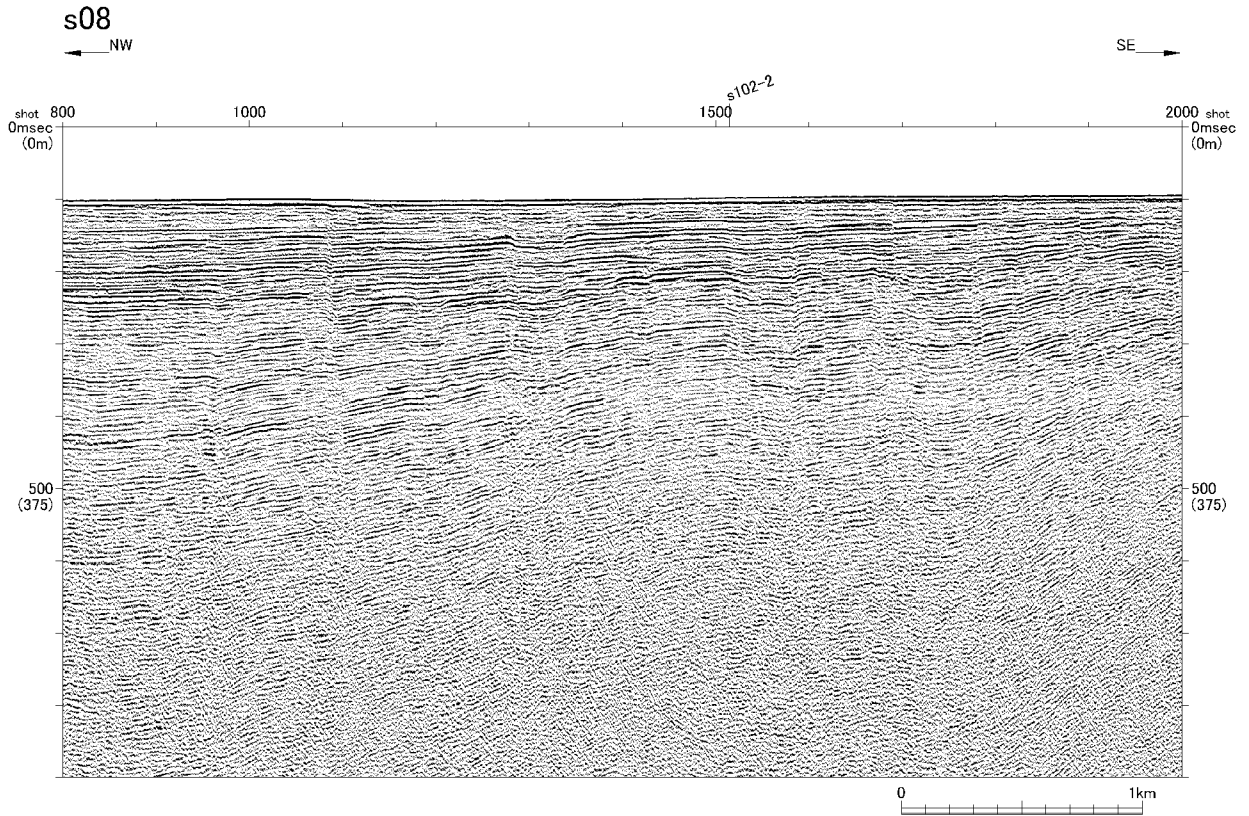
第1.2.7.3.2.107図(1) F-E断層の音波探査記録断面図 (s15測線)



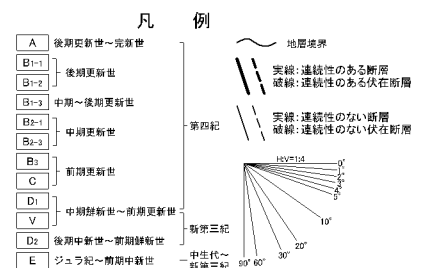
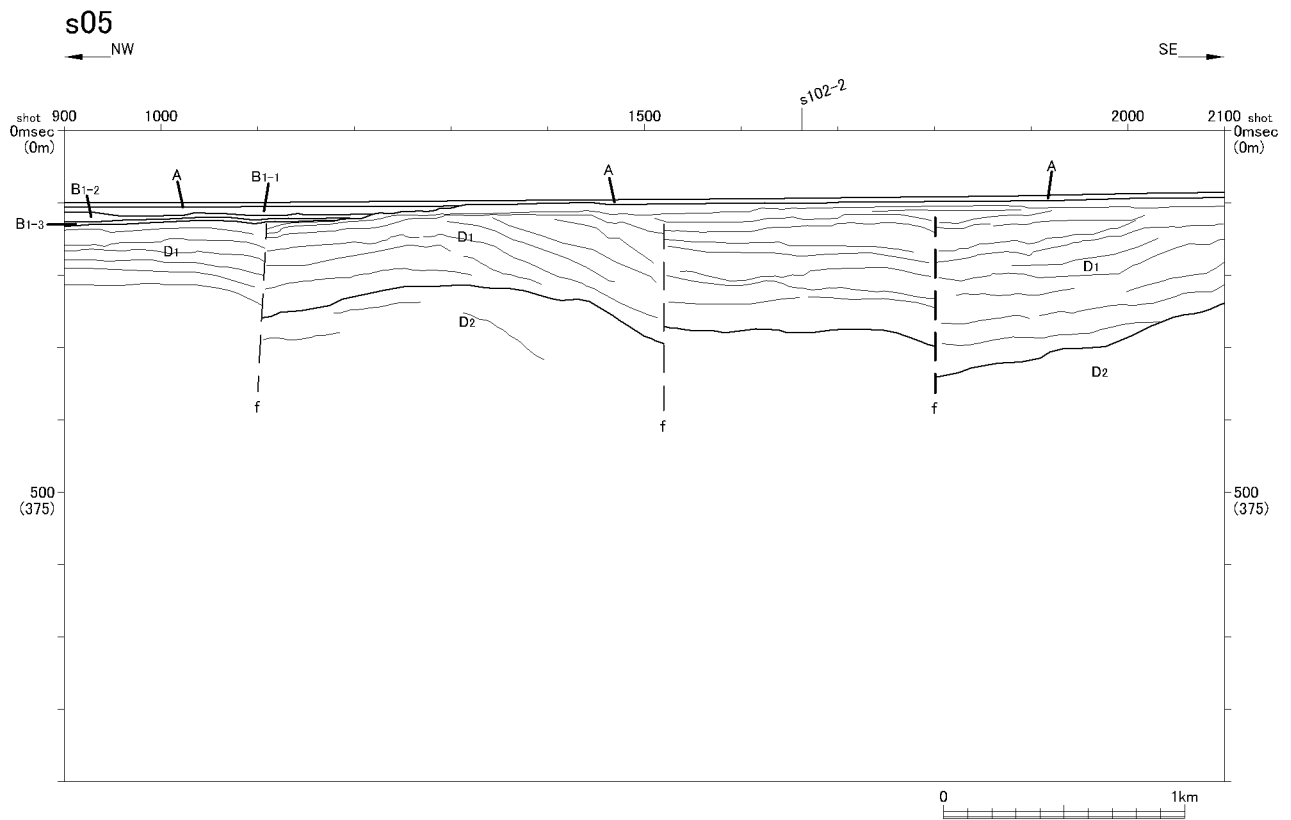
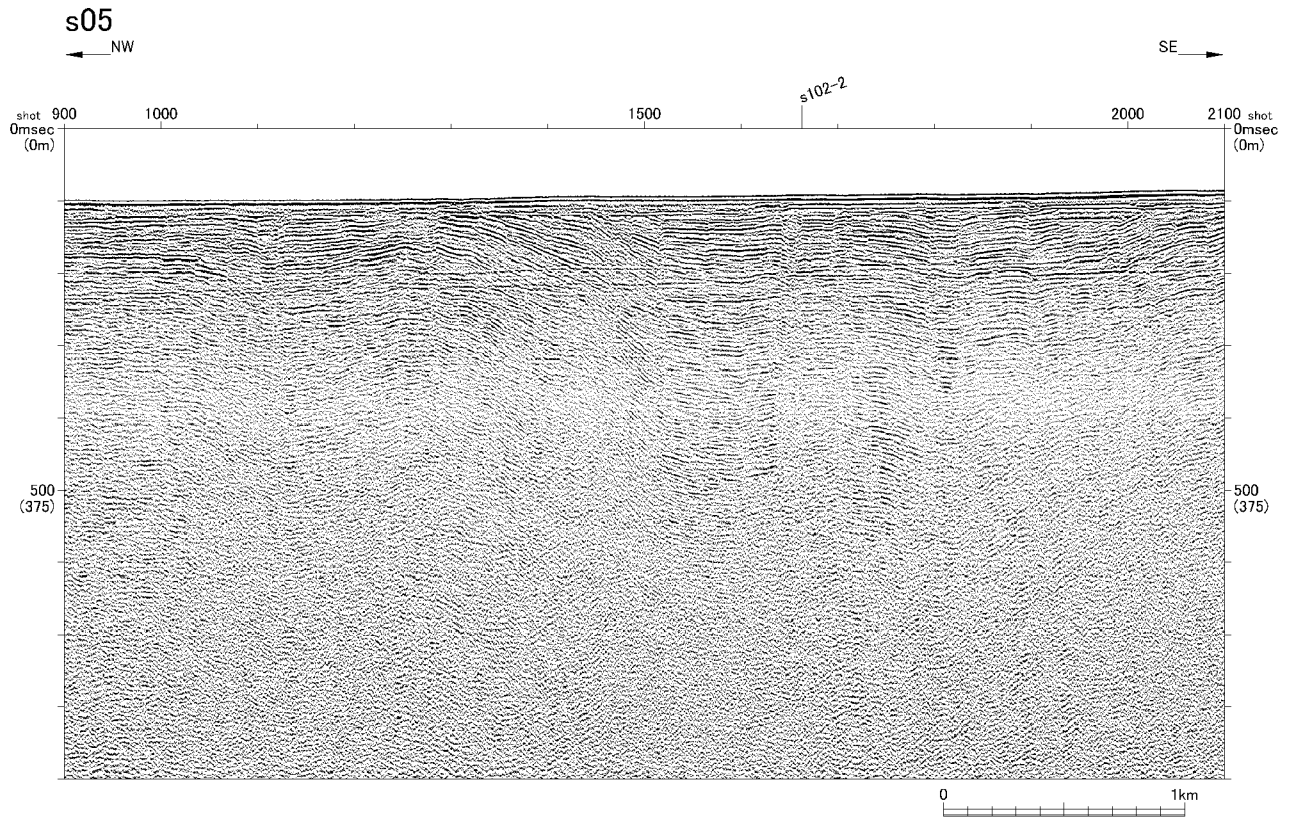
第1.2.7.3.2. 107図(2) F-E断層の音波探査記録断面図 (s13測線)
1.2.7.3-294



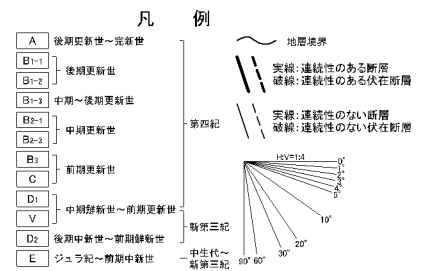
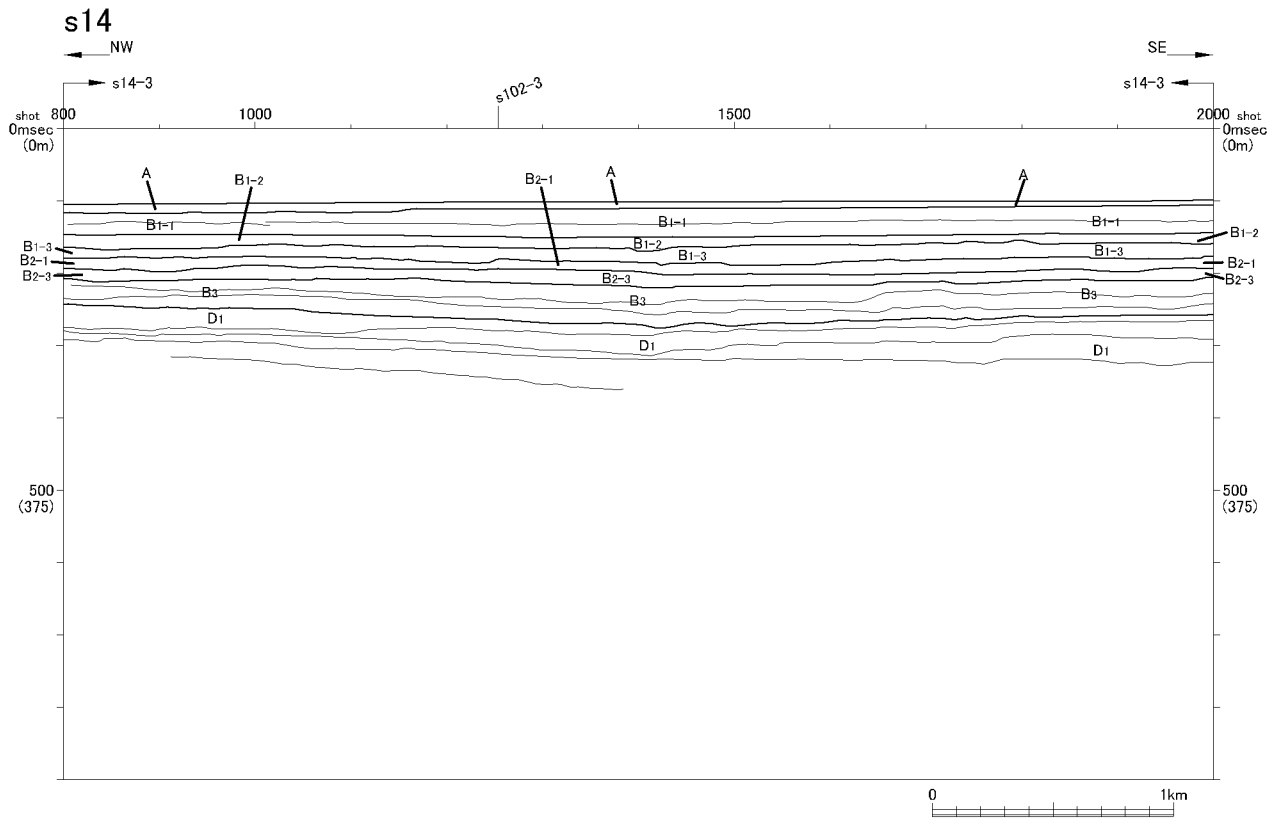
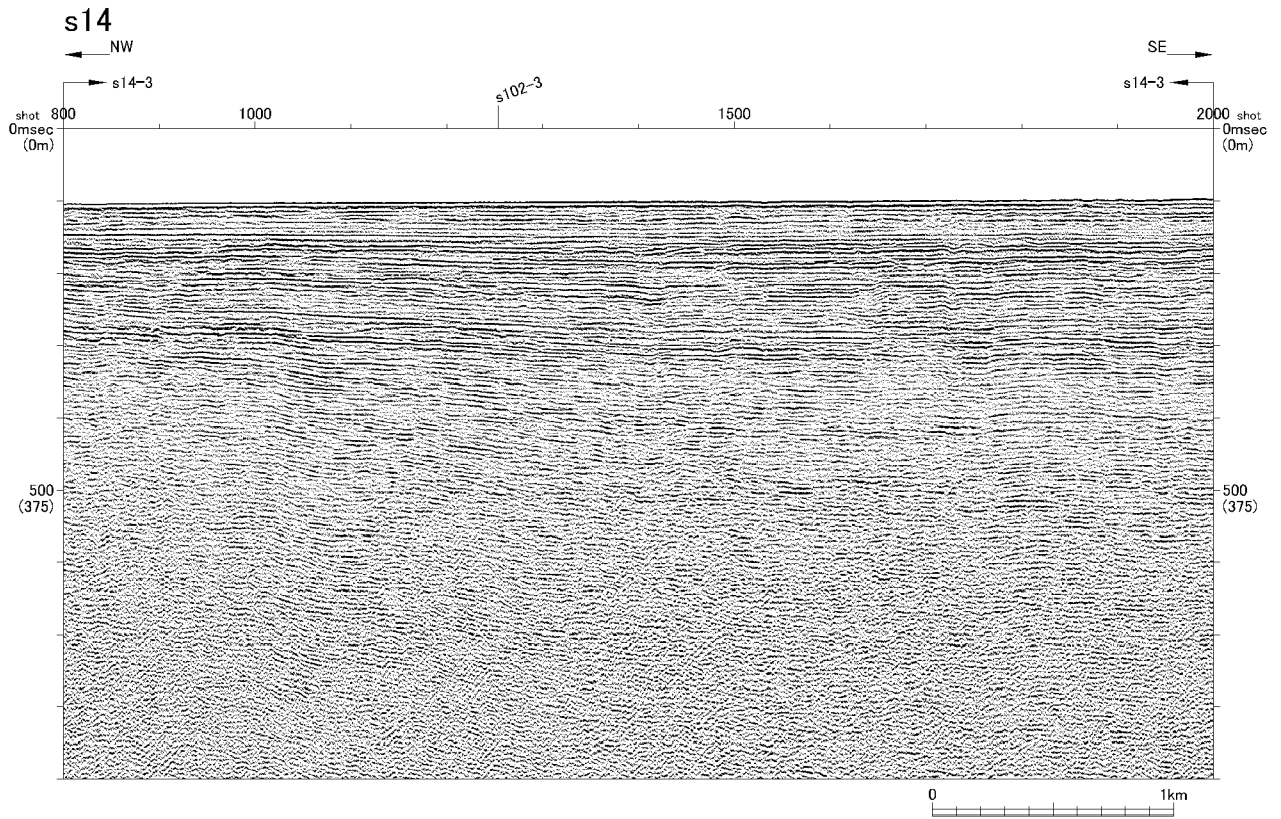
第1.2.7.3.2.107図(3) F-E断層の音波探査記録断面図 (No.16測線)
1.2.7.3-295



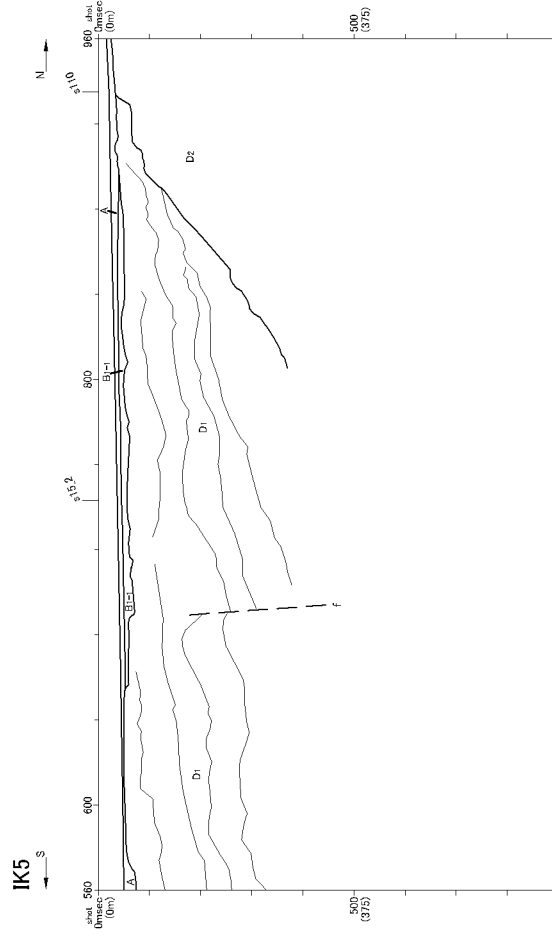
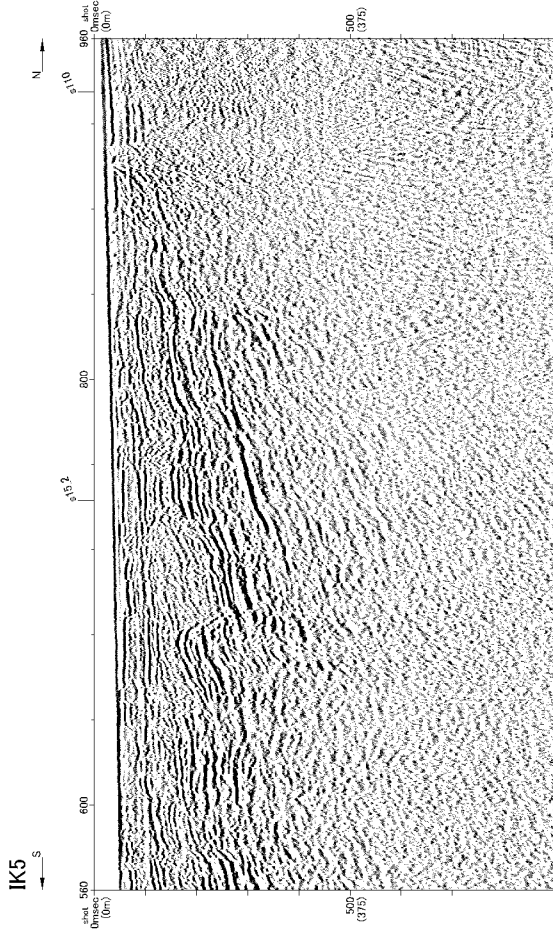
第1.2.7.3.2.109図(1) F-F断層の音波探査記録断面図 (s08測線)
1.2.7.3-297



第1.2.7.3.2.109図(2) F-F断層の音波探査記録断面図 (s05測線)



第1.2.7.3.2.109図(3) F-F断層の音波探査記録断面図 (s14測線)
1.2.7.3-299

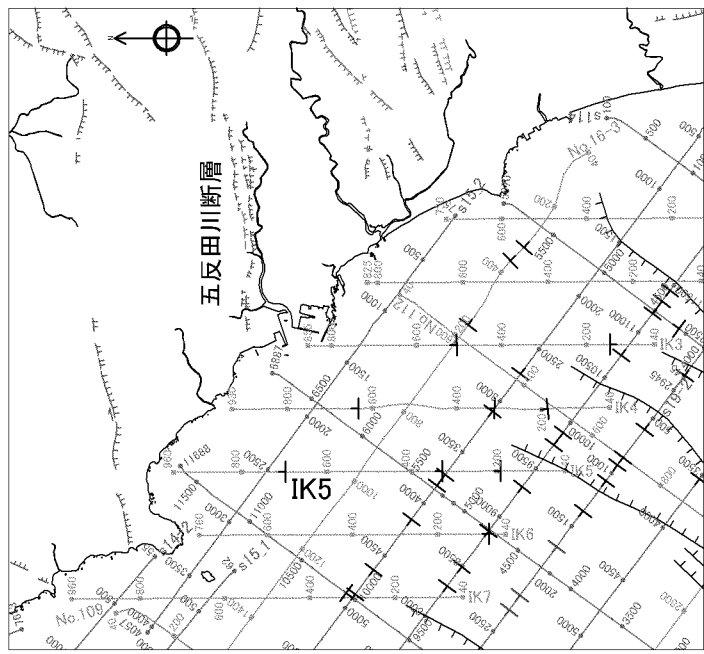


凡例

A	陸奥沖海嶺
B	陸奥沖海嶺
C	陸奥沖海嶺
D	陸奥沖海嶺
E	陸奥沖海嶺
F	陸奥沖海嶺
G	陸奥沖海嶺
H	陸奥沖海嶺
I	陸奥沖海嶺
J	陸奥沖海嶺
K	陸奥沖海嶺
L	陸奥沖海嶺
M	陸奥沖海嶺
N	陸奥沖海嶺
O	陸奥沖海嶺
P	陸奥沖海嶺
Q	陸奥沖海嶺
R	陸奥沖海嶺
S	陸奥沖海嶺
T	陸奥沖海嶺
U	陸奥沖海嶺
V	陸奥沖海嶺
W	陸奥沖海嶺
X	陸奥沖海嶺
Y	陸奥沖海嶺
Z	陸奥沖海嶺

音波探査記録断面図

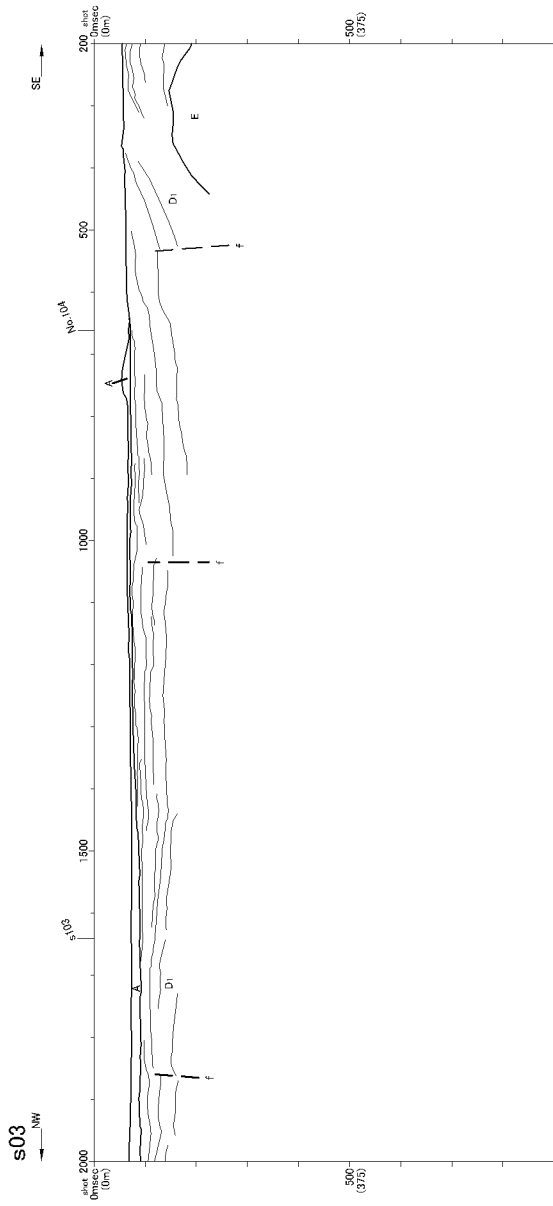
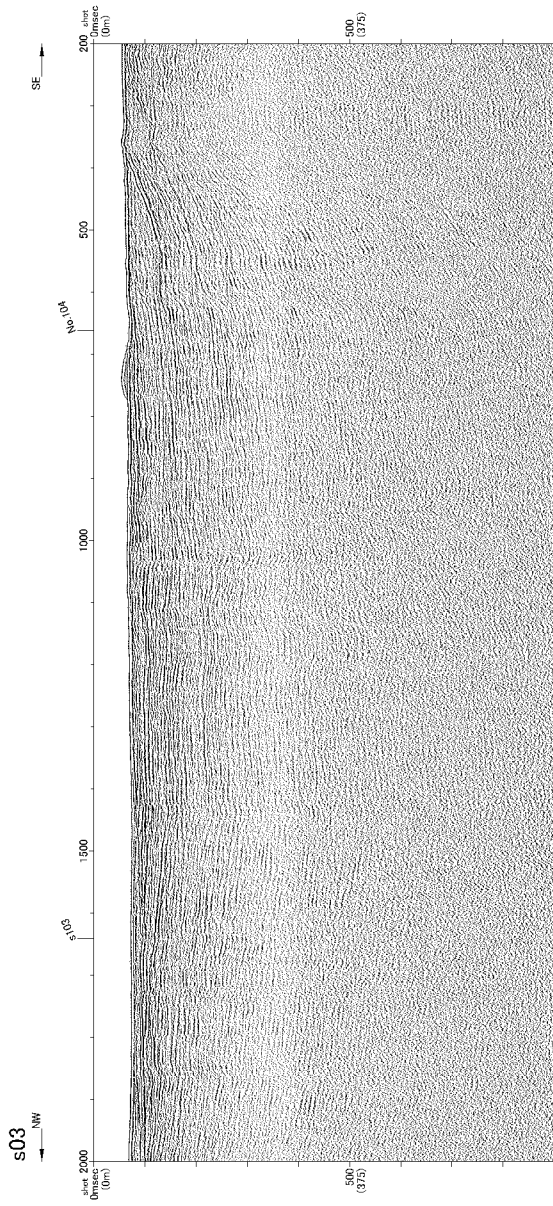
水涯線は、国土地理院発行の数値地図25000空間データ基盤(鹿児島)を編集したものである。



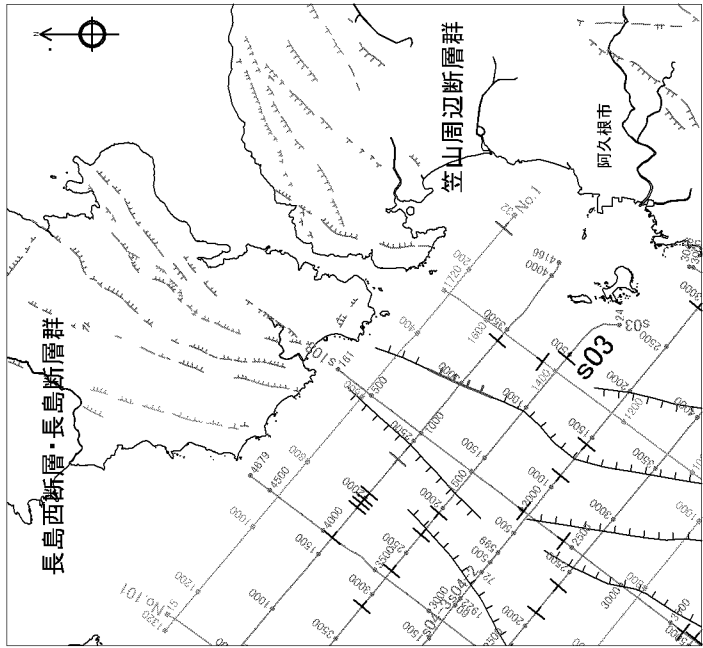
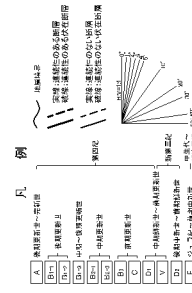
五反田川断層位置図

凡例

- 連続性のある断層
- 連続性のある伏在断層
- 連続性のない断層
- 連続性のない伏在断層
- 九州電力網によるマルチチャネル音波探査測線 (G I ガン、ウォーターガン)
- 九州電力網によるシングルチャネル音波探査測線 (ウォーターガン、スパーカ)
- L B リニアメント
- L C リニアメント
- L D リニアメント



音波探査記録断面図

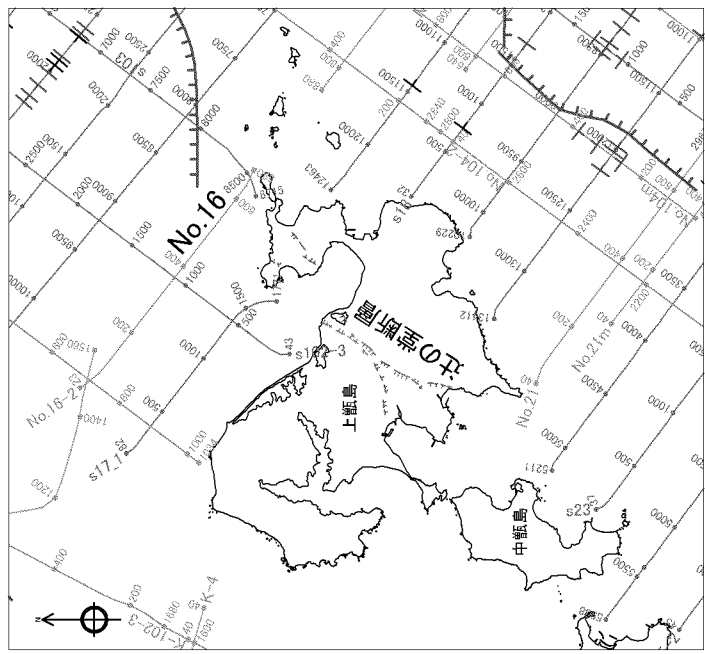
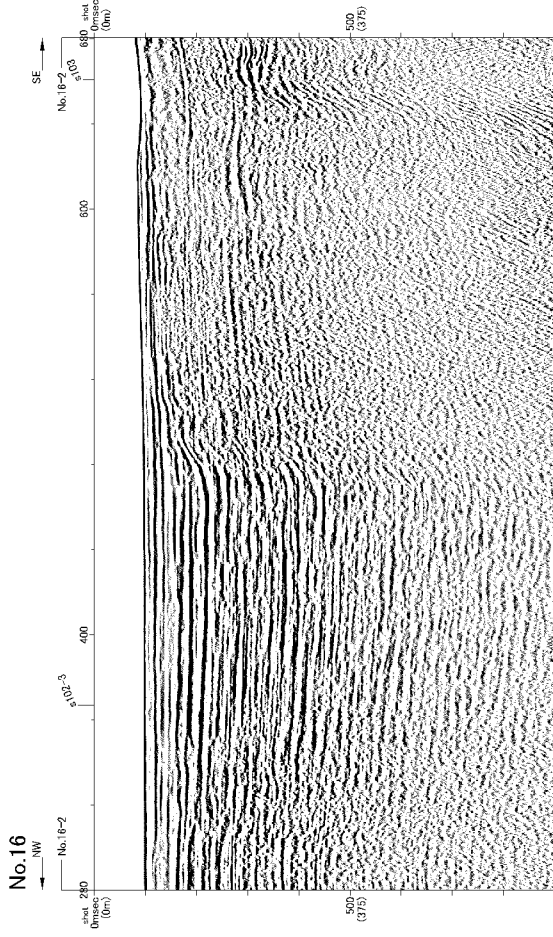


長島西断層・長島断層、笠山周辺断層位置図

凡例

- 連続性のある断層
- 連続性のある伏在断層
- 連続性のない断層
- 連続性のない伏在断層
- 九州電力網によるマルチチャネル音波探査測線 (G I ガン、ウォーターガン)
- 九州電力網によるシングルチャネル音波探査測線 (ウォーターガン、スパーカ)
- L B リニアメント
- L C リニアメント
- L D リニアメント

水運線は、国土地理院発行の数値地図25000空間データ基盤(熊本・鹿児島)を編集したものである。



仕の堂断層位置図

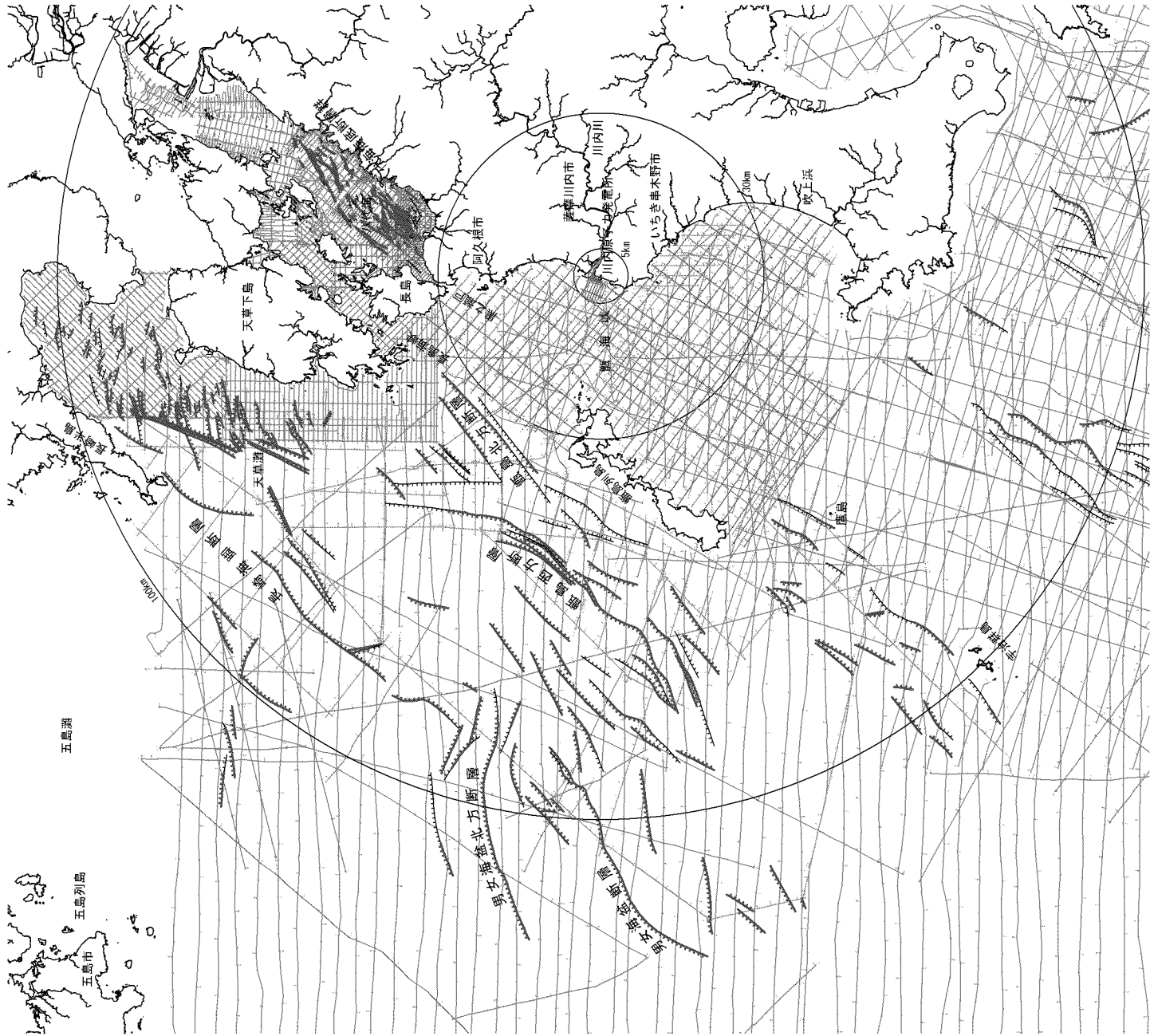
凡 例

- 連続性のある断層
- 連続性のある伏在断層
- 連続性のない断層
- 連続性のない伏在断層
- 九州電力網によるマルチチャンネル音波探査測線 (G Iガン、ウォーターガン)
- 九州電力網によるシングルチャンネル音波探査測線 (ウォーターガン、スパーカ)
- L Bリアメント
- L Cリアメント
- L Dリアメント

音波探査記録断面図



水涯線は、国土地理院発行の数値地図25000空間データ基盤(鹿児島)を編集したものである。

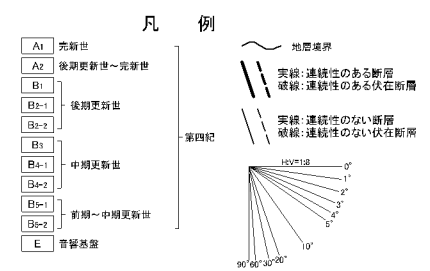
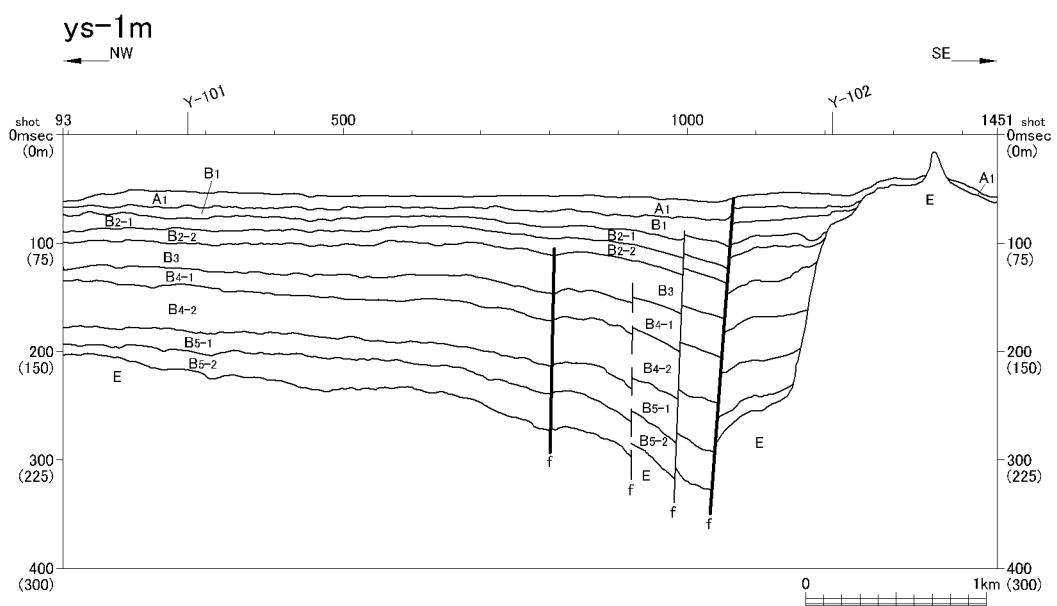
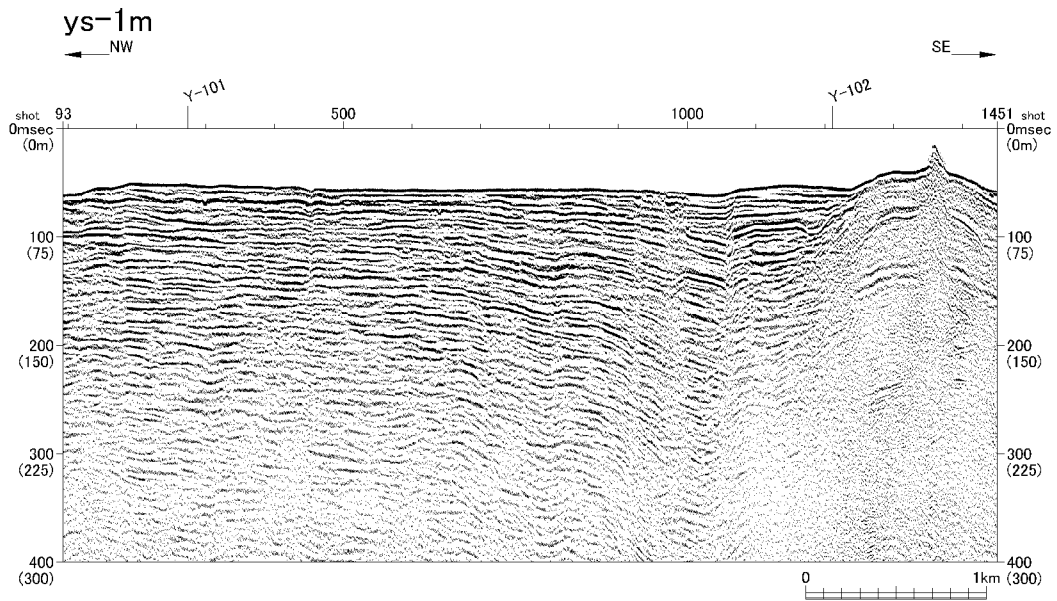


水涯網は、国土地理院発行の数値地図25000空間データ基盤(長崎)也を編集したものである。

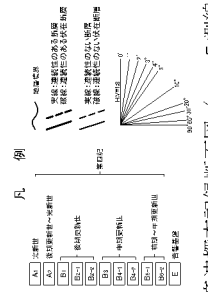
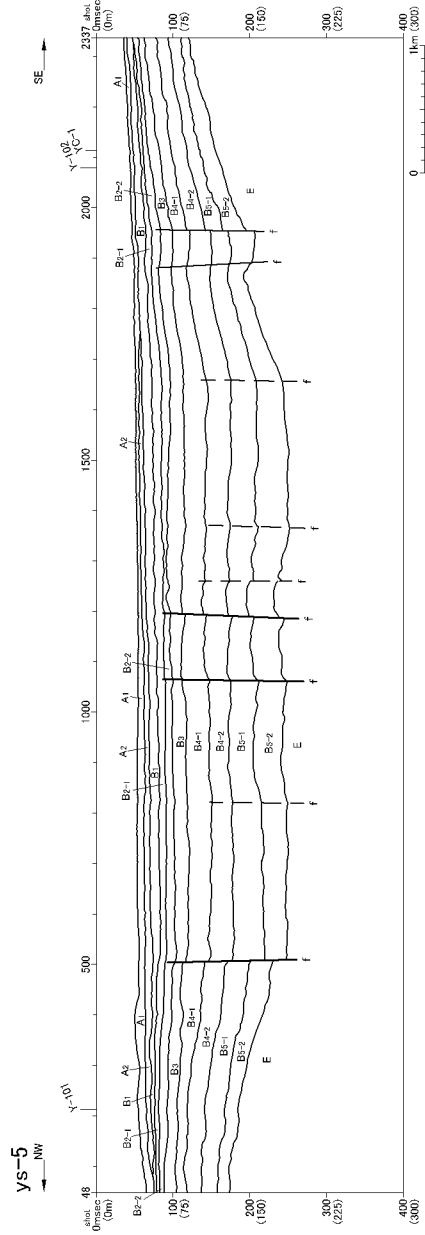
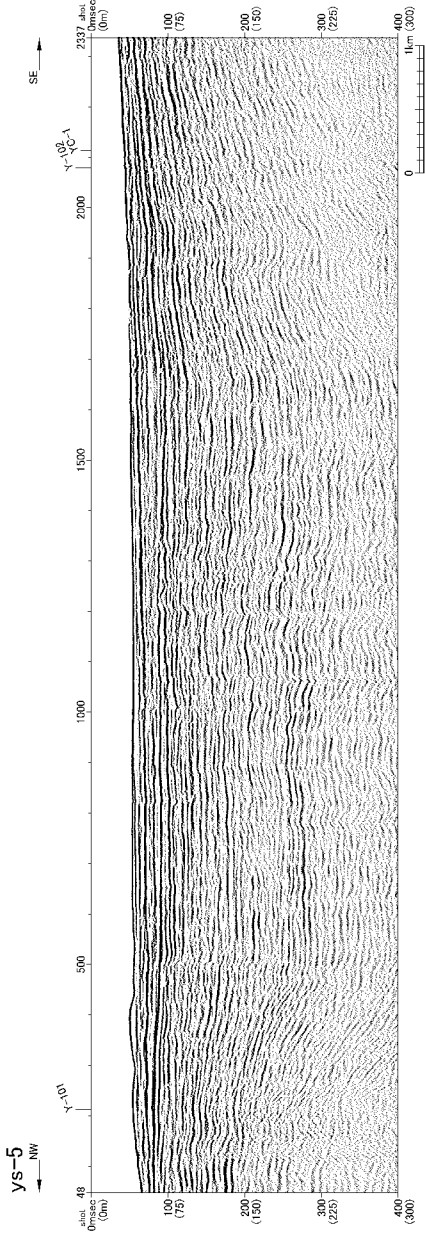


- 凡 例
- 連続性のある断層
 - 連続性のある伏在断層
 - 九州電力株によるマルチチャネル音波探査測線 (G1ガン、ウォーターガン)
 - 九州電力株によるシングルチャネル音波探査測線 (ウォーターガン、スハーカ)
 - 他機関による音波探査測線

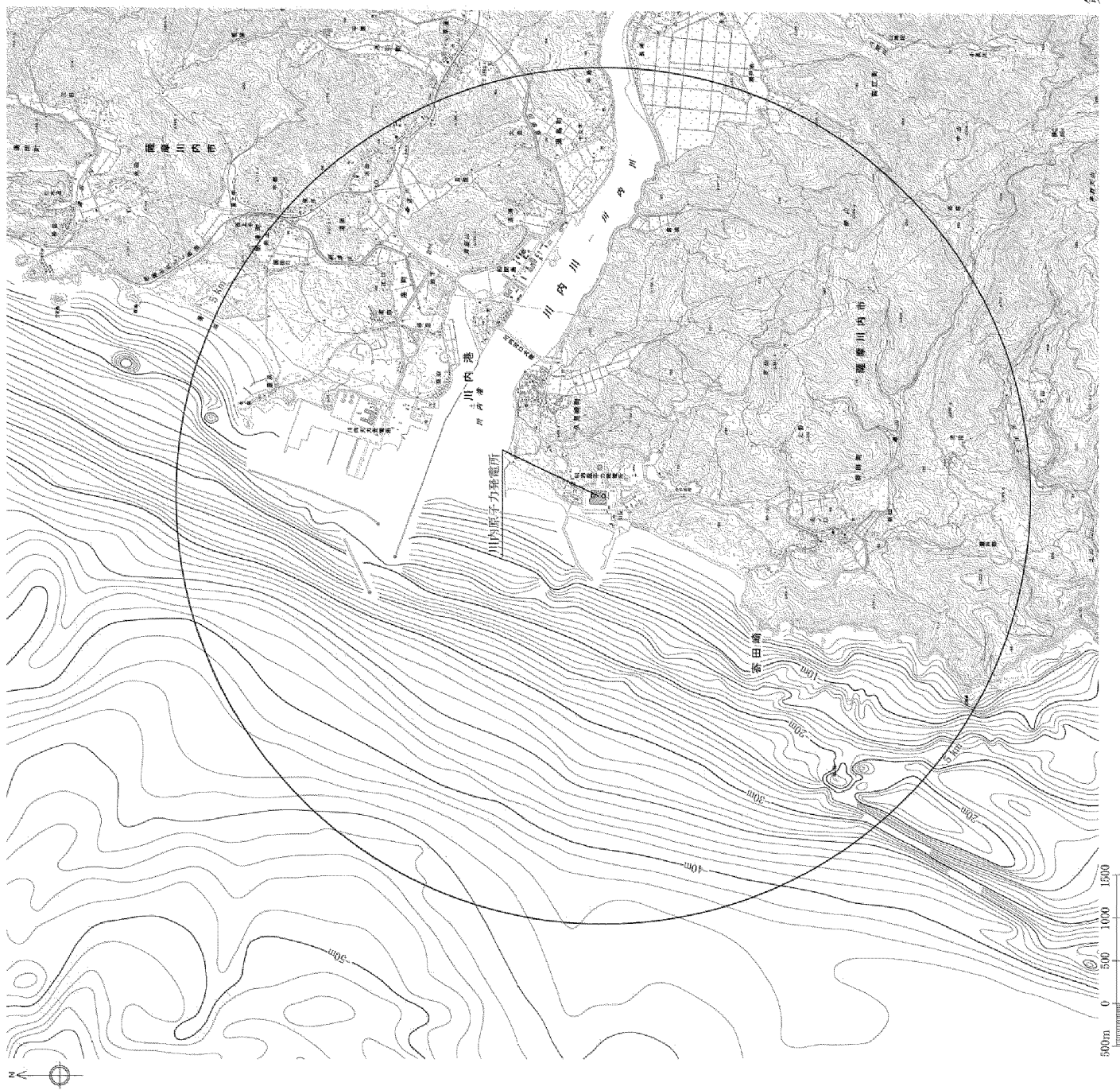
第1.2.7.3.2.113図 敷地周辺海域の断層分布図
1.2.7.3-304



第1.2.7.3.2.115図 Fy-A断層群の音波探査記録断面図 (ys-1m測線)



第1.2.7.3.2.116図(1) Fy-B断面群の音波探査記録断面図 (ys-5 測線)
1.2.7.3-307



この陸域の地図は、国土地理院発行の2万5千分の1
 地形図（西方・羽島）を使用したものである。海域の地
 図は、海上保安庁発行の5万分の1沿岸の海図の基本
 図（阿久根・串木野）を編纂したものである。

第 1.2.7.3.3.1 図 敷地近傍の地形図

- 丸内地域
 [A層を除いた地質図]
 B₁層
 D層
 香瀬川丸内
- 九州電力によるシミュレーションモデルを基にした調査結果
 (ウォータージェル、エム・エル)
- 九州電力による丸内マルチチャネルの調査結果
 (ウォータージェル)

- 丸内一帯域
 沖積層及び埋土
 扇状地・扇状地堆積物
 砂丘堆積物
 低位扇状地堆積物
 阿久戸川沖積堆積物
 阿多川沖積堆積物
 中尾山沖積堆積物
 加久藤川沖積堆積物
 高尾山沖積堆積物
 川内玄武岩1(笠原)川内玄武岩類
 川内玄武岩堆積物
 扇状地堆積物
 会野川沖積堆積物
 柳五岳山麓扇状地
 柳五岳山麓扇状地A
 柳五岳山麓扇状地B
 柳五岳山麓扇状地C
 柳五岳山麓扇状地D
 柳五岳山麓扇状地E
 柳五岳山麓扇状地F
 柳五岳山麓扇状地G
 柳五岳山麓扇状地H
 柳五岳山麓扇状地I
 柳五岳山麓扇状地J
 柳五岳山麓扇状地K
 柳五岳山麓扇状地L
 柳五岳山麓扇状地M
 柳五岳山麓扇状地N
 柳五岳山麓扇状地O
 柳五岳山麓扇状地P
 柳五岳山麓扇状地Q
 柳五岳山麓扇状地R
 柳五岳山麓扇状地S
 柳五岳山麓扇状地T
 柳五岳山麓扇状地U
 柳五岳山麓扇状地V
 柳五岳山麓扇状地W
 柳五岳山麓扇状地X
 柳五岳山麓扇状地Y
 柳五岳山麓扇状地Z

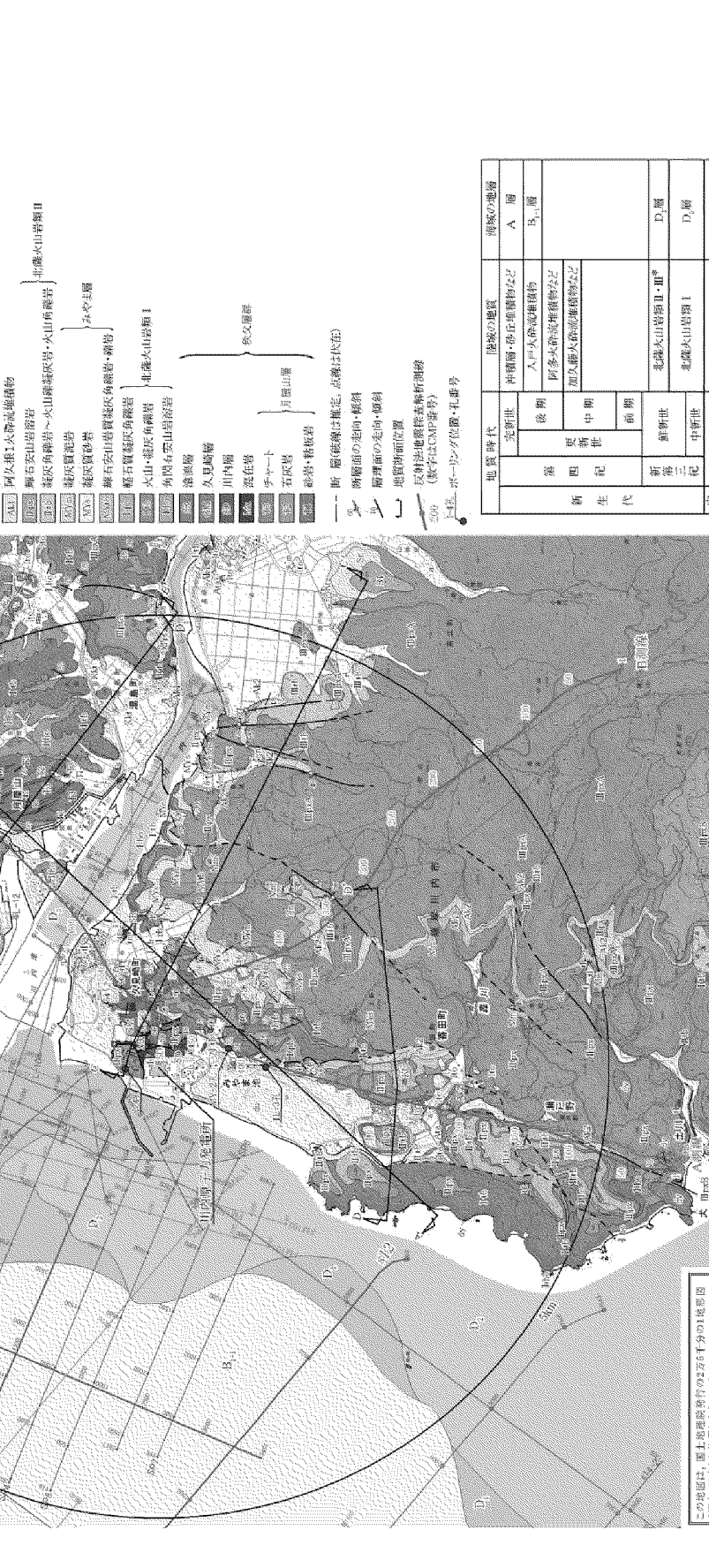
- 北流火山岩類Ⅲ
 北流火山岩類Ⅱ
 北流火山岩類Ⅰ
 北流火山岩類Ⅳ
 北流火山岩類Ⅴ
 北流火山岩類Ⅵ
 北流火山岩類Ⅶ
 北流火山岩類Ⅷ
 北流火山岩類Ⅸ
 北流火山岩類Ⅹ
 北流火山岩類Ⅺ
 北流火山岩類Ⅻ
 北流火山岩類Ⅼ
 北流火山岩類Ⅽ
 北流火山岩類Ⅾ
 北流火山岩類Ⅿ
 北流火山岩類ⅰ
 北流火山岩類ⅱ
 北流火山岩類ⅲ
 北流火山岩類ⅴ
 北流火山岩類ⅵ
 北流火山岩類ⅶ
 北流火山岩類ⅷ
 北流火山岩類ⅸ
 北流火山岩類ⅹ
 北流火山岩類ⅺ
 北流火山岩類ⅻ
 北流火山岩類ⅼ
 北流火山岩類ⅽ
 北流火山岩類ⅾ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ

- 北流火山岩類Ⅰ
 北流火山岩類Ⅱ
 北流火山岩類Ⅲ
 北流火山岩類Ⅳ
 北流火山岩類Ⅴ
 北流火山岩類Ⅵ
 北流火山岩類Ⅶ
 北流火山岩類Ⅷ
 北流火山岩類Ⅸ
 北流火山岩類Ⅹ
 北流火山岩類Ⅺ
 北流火山岩類Ⅻ
 北流火山岩類Ⅼ
 北流火山岩類Ⅽ
 北流火山岩類Ⅾ
 北流火山岩類Ⅿ
 北流火山岩類ⅰ
 北流火山岩類ⅱ
 北流火山岩類ⅲ
 北流火山岩類ⅴ
 北流火山岩類ⅵ
 北流火山岩類ⅶ
 北流火山岩類ⅷ
 北流火山岩類ⅸ
 北流火山岩類ⅹ
 北流火山岩類ⅺ
 北流火山岩類ⅻ
 北流火山岩類ⅼ
 北流火山岩類ⅽ
 北流火山岩類ⅾ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ

- 北流火山岩類Ⅰ
 北流火山岩類Ⅱ
 北流火山岩類Ⅲ
 北流火山岩類Ⅳ
 北流火山岩類Ⅴ
 北流火山岩類Ⅵ
 北流火山岩類Ⅶ
 北流火山岩類Ⅷ
 北流火山岩類Ⅸ
 北流火山岩類Ⅹ
 北流火山岩類Ⅺ
 北流火山岩類Ⅻ
 北流火山岩類Ⅼ
 北流火山岩類Ⅽ
 北流火山岩類Ⅾ
 北流火山岩類Ⅿ
 北流火山岩類ⅰ
 北流火山岩類ⅱ
 北流火山岩類ⅲ
 北流火山岩類ⅴ
 北流火山岩類ⅵ
 北流火山岩類ⅶ
 北流火山岩類ⅷ
 北流火山岩類ⅸ
 北流火山岩類ⅹ
 北流火山岩類ⅺ
 北流火山岩類ⅻ
 北流火山岩類ⅼ
 北流火山岩類ⅽ
 北流火山岩類ⅾ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ

- 北流火山岩類Ⅰ
 北流火山岩類Ⅱ
 北流火山岩類Ⅲ
 北流火山岩類Ⅳ
 北流火山岩類Ⅴ
 北流火山岩類Ⅵ
 北流火山岩類Ⅶ
 北流火山岩類Ⅷ
 北流火山岩類Ⅸ
 北流火山岩類Ⅹ
 北流火山岩類Ⅺ
 北流火山岩類Ⅻ
 北流火山岩類Ⅼ
 北流火山岩類Ⅽ
 北流火山岩類Ⅾ
 北流火山岩類Ⅿ
 北流火山岩類ⅰ
 北流火山岩類ⅱ
 北流火山岩類ⅲ
 北流火山岩類ⅴ
 北流火山岩類ⅵ
 北流火山岩類ⅶ
 北流火山岩類ⅷ
 北流火山岩類ⅸ
 北流火山岩類ⅹ
 北流火山岩類ⅺ
 北流火山岩類ⅻ
 北流火山岩類ⅼ
 北流火山岩類ⅽ
 北流火山岩類ⅾ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ

- 北流火山岩類Ⅰ
 北流火山岩類Ⅱ
 北流火山岩類Ⅲ
 北流火山岩類Ⅳ
 北流火山岩類Ⅴ
 北流火山岩類Ⅵ
 北流火山岩類Ⅶ
 北流火山岩類Ⅷ
 北流火山岩類Ⅸ
 北流火山岩類Ⅹ
 北流火山岩類Ⅺ
 北流火山岩類Ⅻ
 北流火山岩類Ⅼ
 北流火山岩類Ⅽ
 北流火山岩類Ⅾ
 北流火山岩類Ⅿ
 北流火山岩類ⅰ
 北流火山岩類ⅱ
 北流火山岩類ⅲ
 北流火山岩類ⅴ
 北流火山岩類ⅵ
 北流火山岩類ⅶ
 北流火山岩類ⅷ
 北流火山岩類ⅸ
 北流火山岩類ⅹ
 北流火山岩類ⅺ
 北流火山岩類ⅻ
 北流火山岩類ⅼ
 北流火山岩類ⅽ
 北流火山岩類ⅾ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ
 北流火山岩類ⅿ



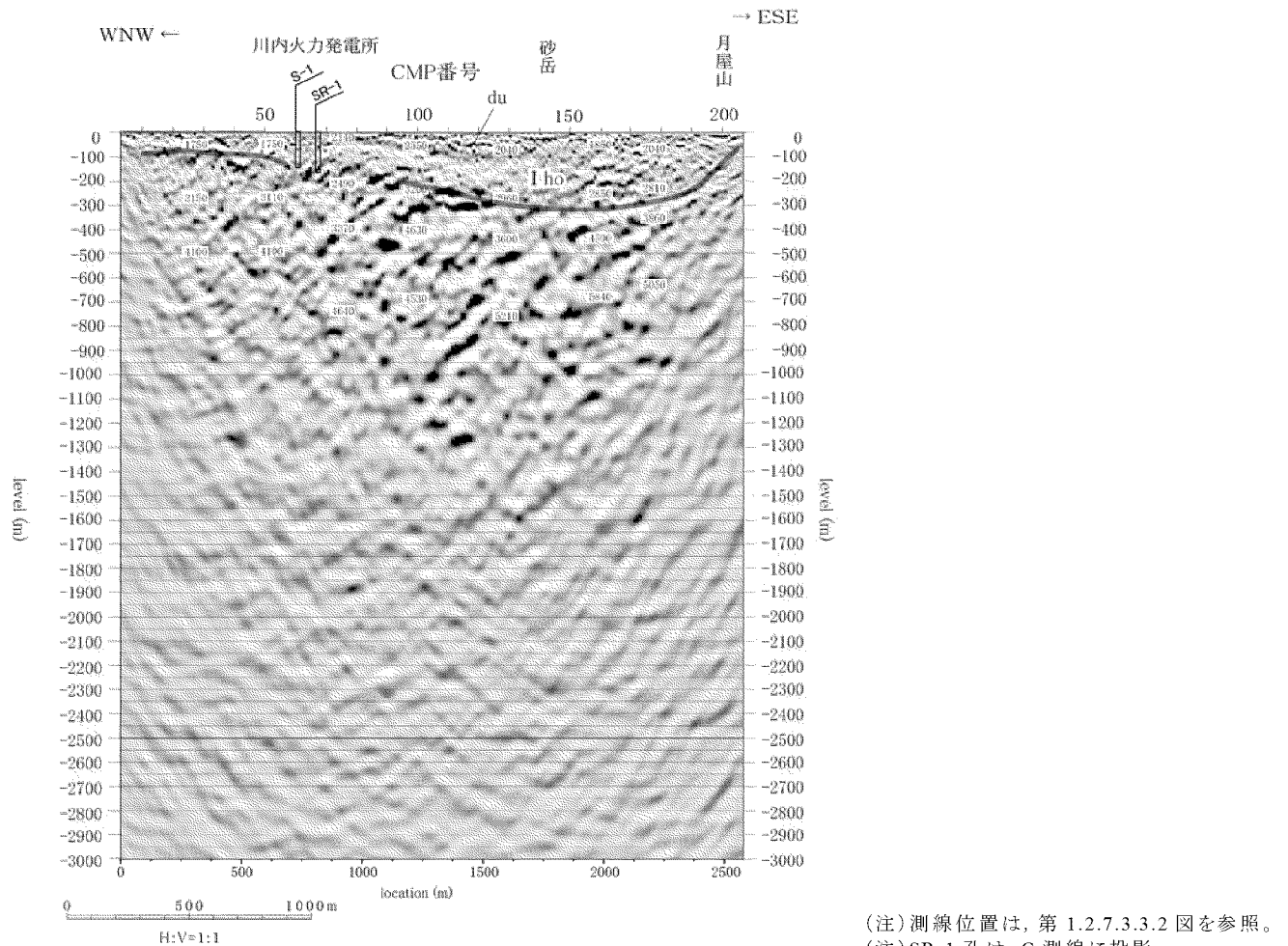
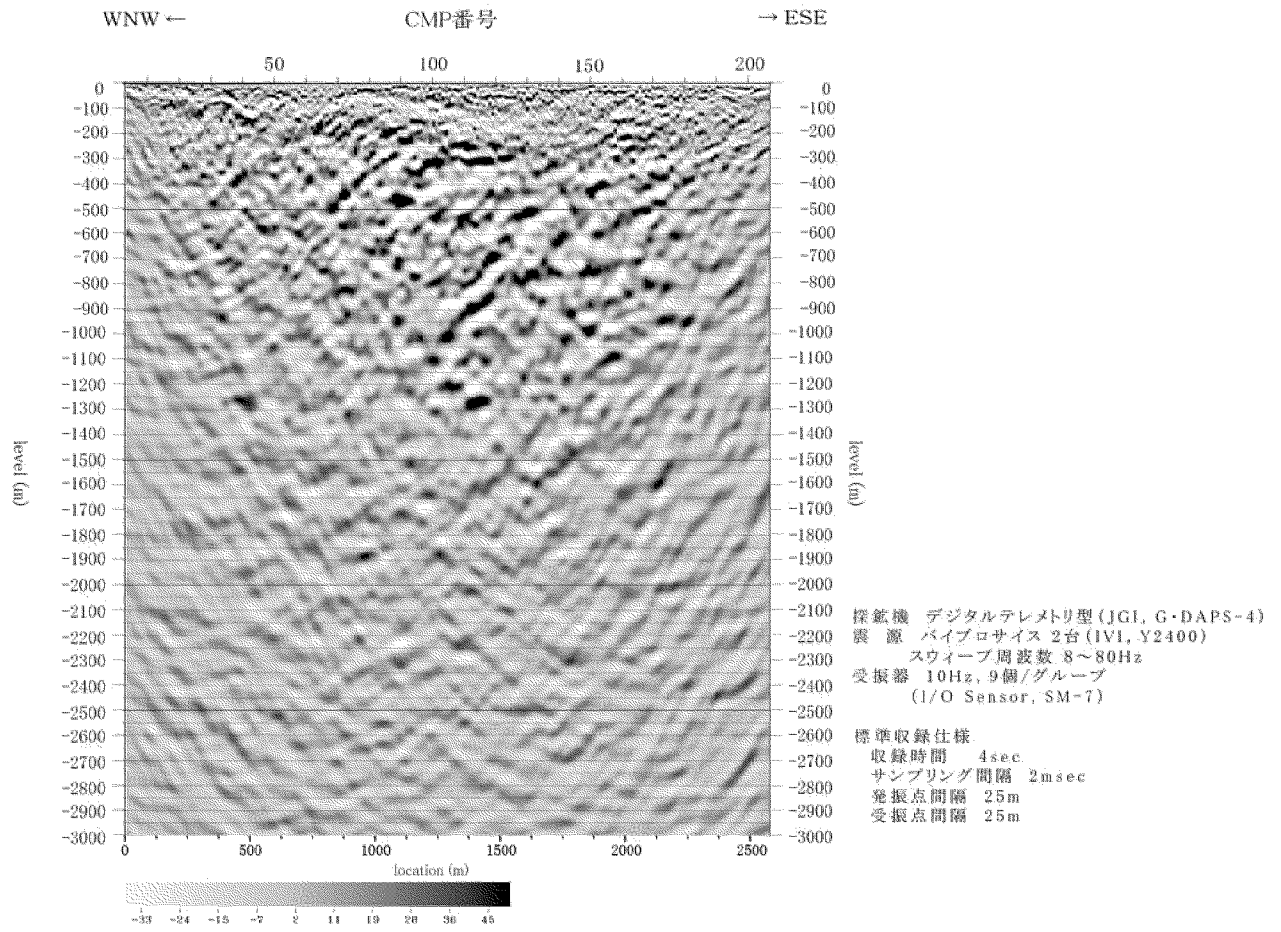
この図は、国土院調査資料の2/25千分の1地質図(野カ-羽島)を基にしたものである。

500m 0 500 1000 1500

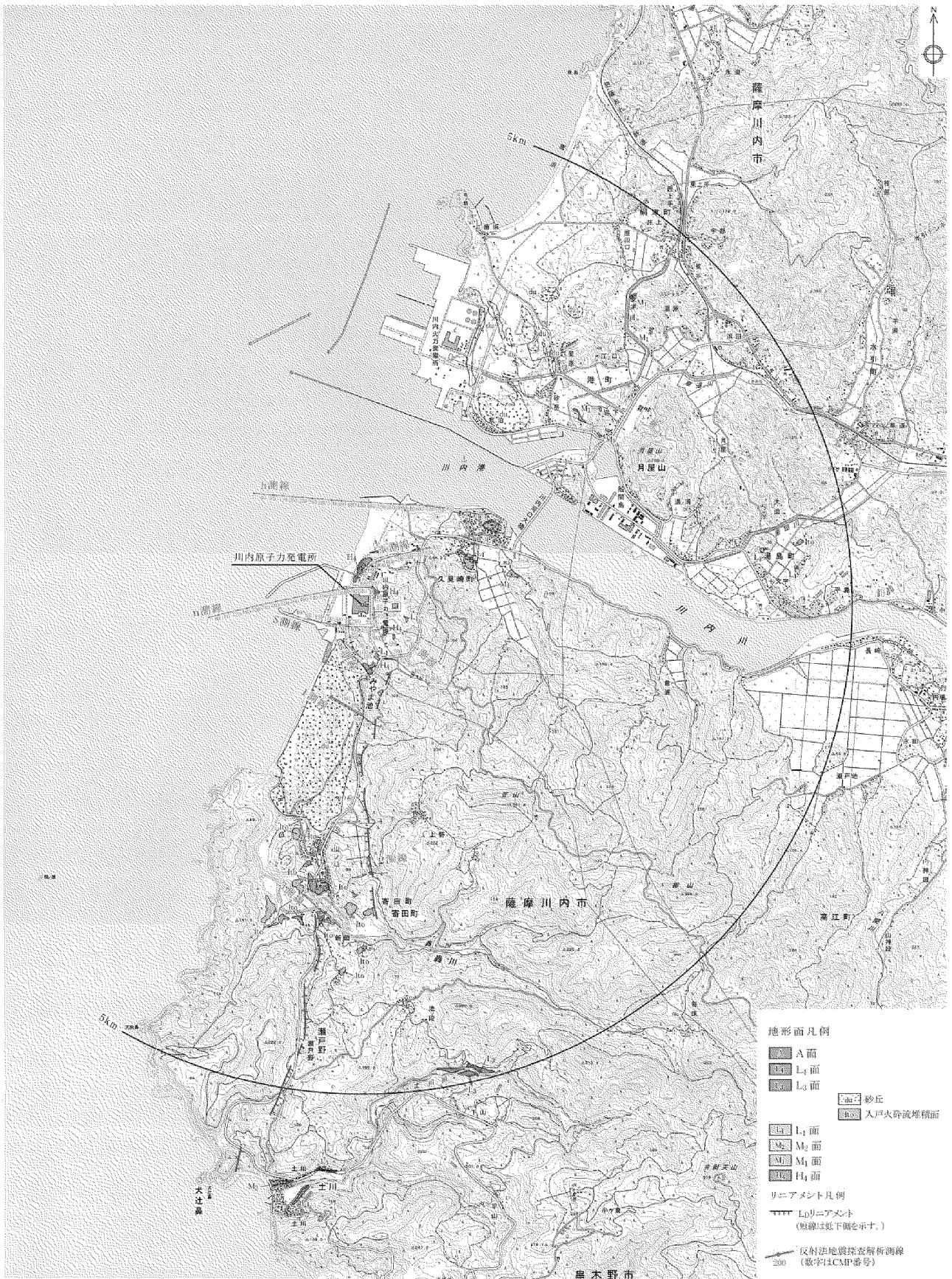
* 阿久戸川沖積堆積物、中尾山沖積堆積物、加久藤川沖積堆積物及び扇状地堆積物を含む。

地質時代		陸架の地質		海城の地層	
新生代	第四紀	前期	沖積層・砂丘堆積物など	A層	
	更新世	後期	阿多川沖積堆積物	B ₁ 層	
		中期	加久藤川沖積堆積物など		
		前期			
新第三紀	中新世	北流火山岩類Ⅱ・Ⅲ*	D ₂ 層		
	中新世	北流火山岩類Ⅰ	D ₁ 層		
	白亜紀	伊予層群	E層		
中生代					
古生代					

断層破線は推定、点線は仮定
 階層面の走向・傾斜
 階層面の走向・傾斜
 地質断面位置
 反斜地帯地質調査断面線
 200 (数字はGMAP番号)
 1:50,000 (数字はGMAP番号)

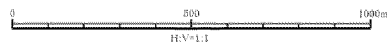
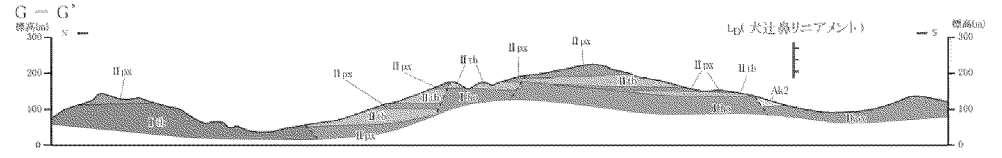
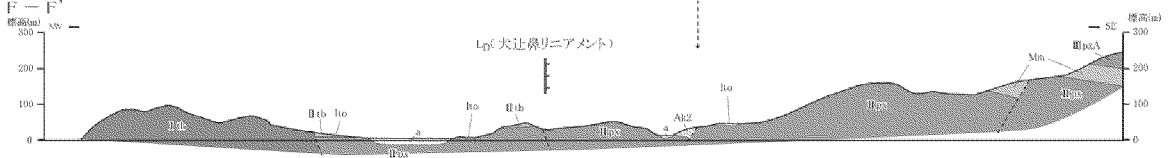
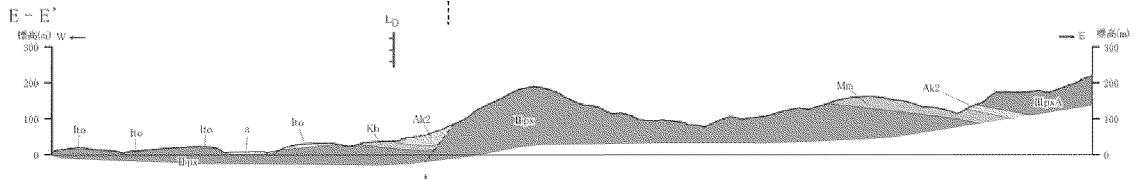
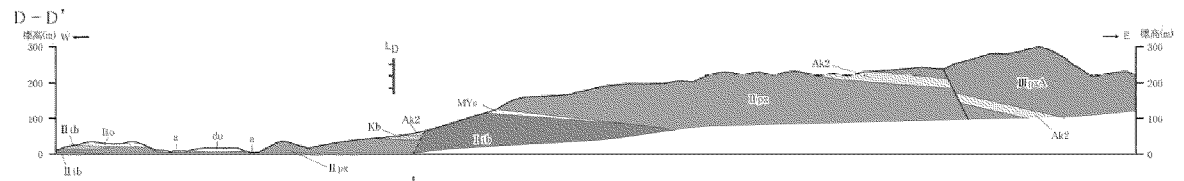
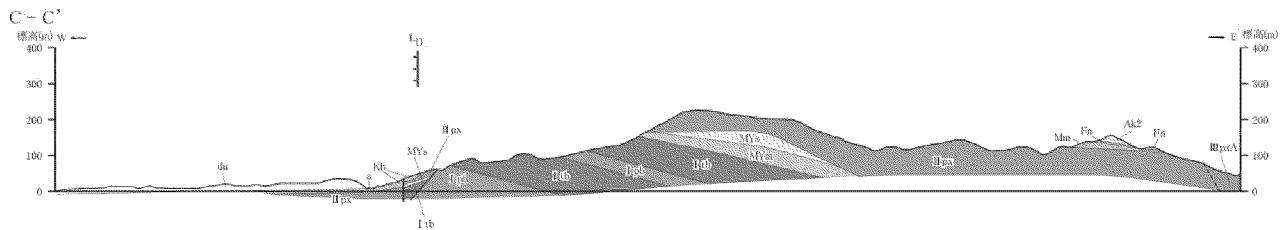
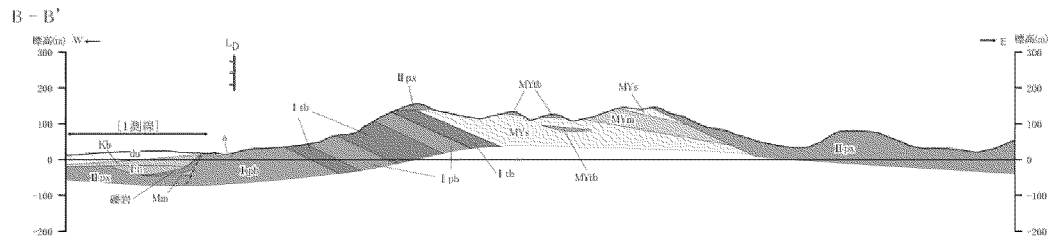
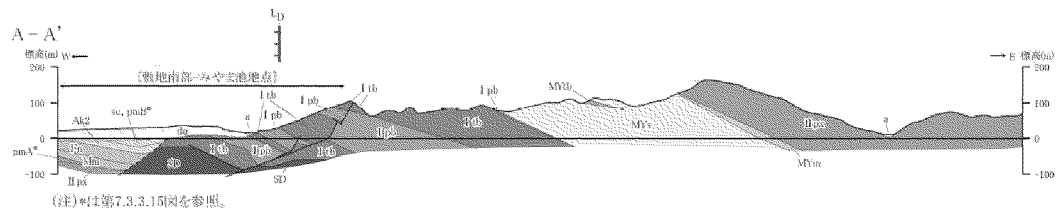


第 1.2.7.3.3.4 図(3) 反射法地震探査による深度断面とその解釈 (C 測線)



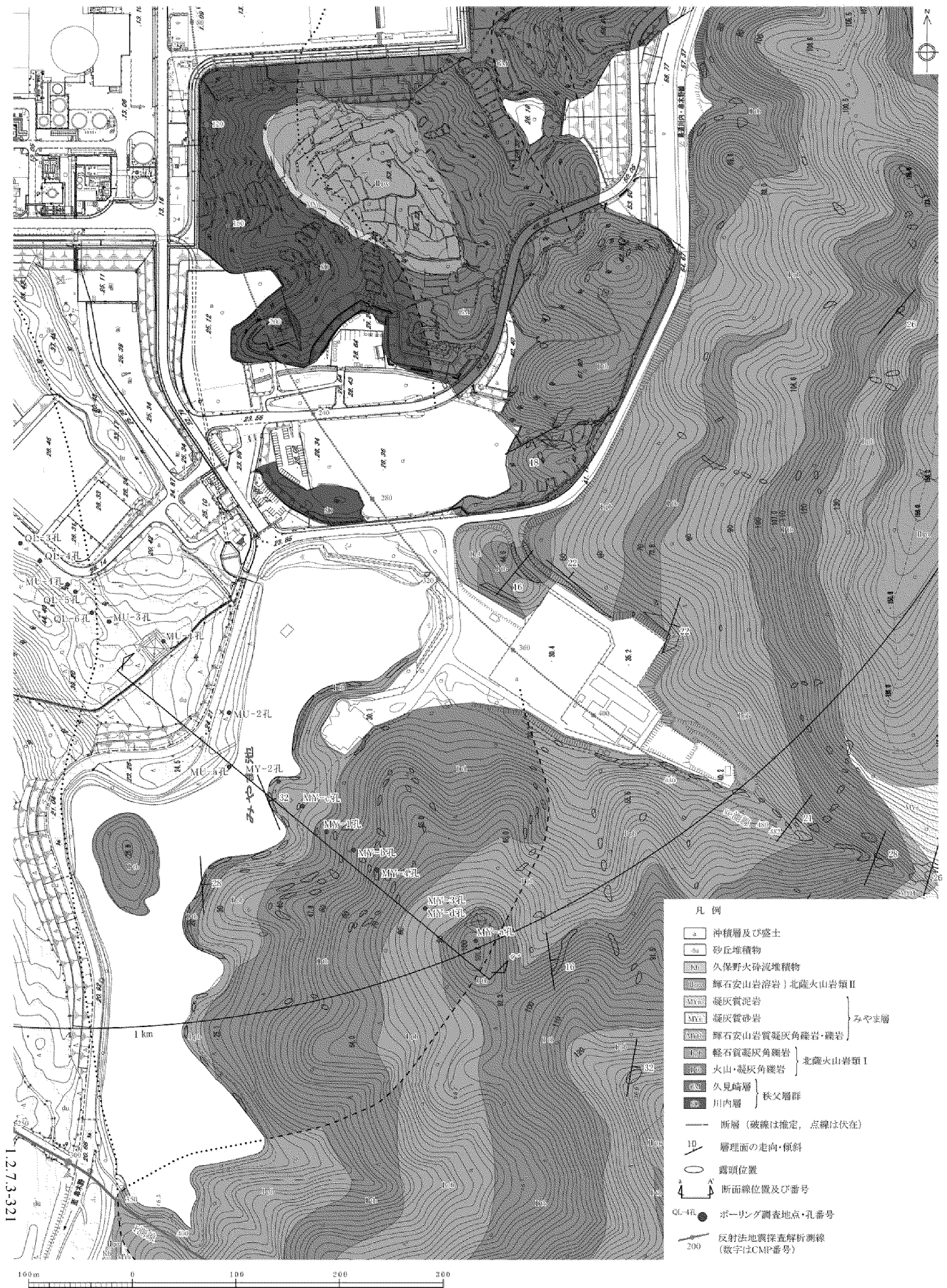
この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(西方・羽島)を使用したものである。

第 1.2.7.3.3.5 図 敷地近傍陸域の空中写真判読図

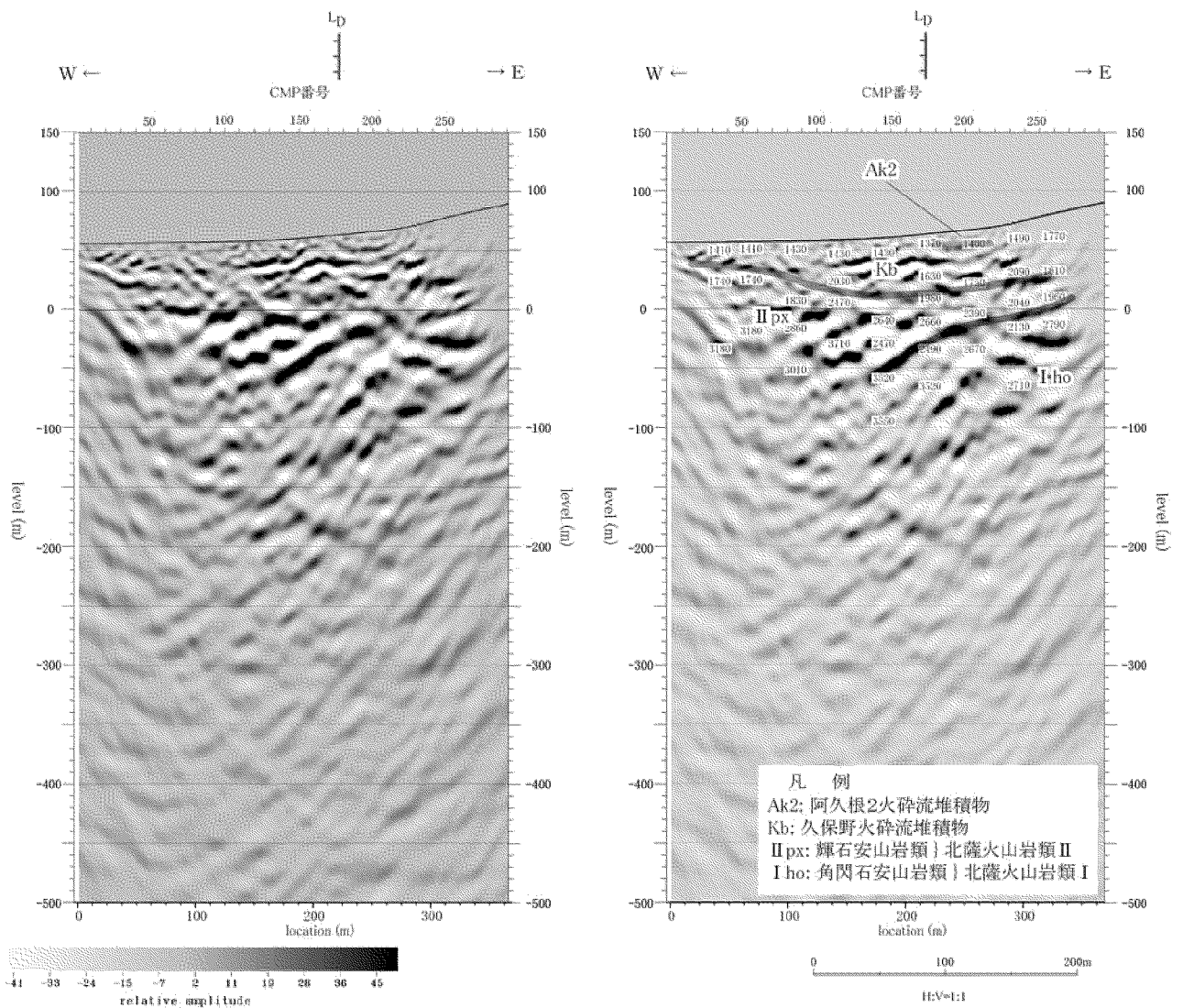
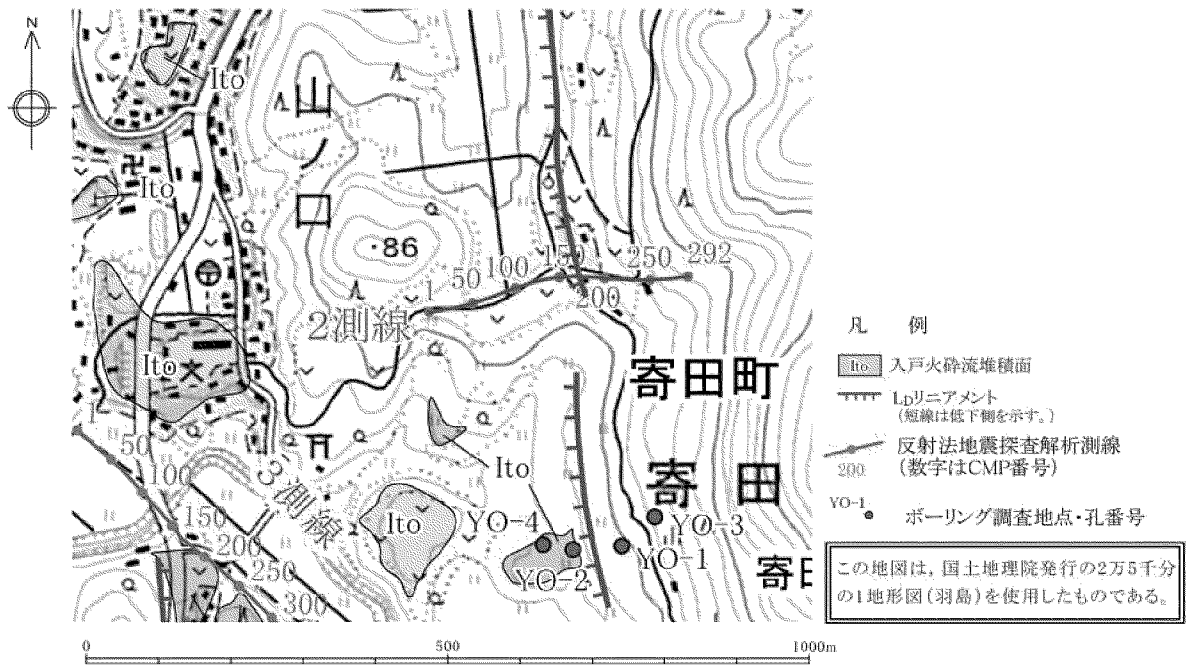


1.2.7.3-320

(注) 凡例は、第 1.2.7.3.3.7 図を参照。
第 1.2.7.3.3.8 図 寄田東リニアメント周辺の地質断面図



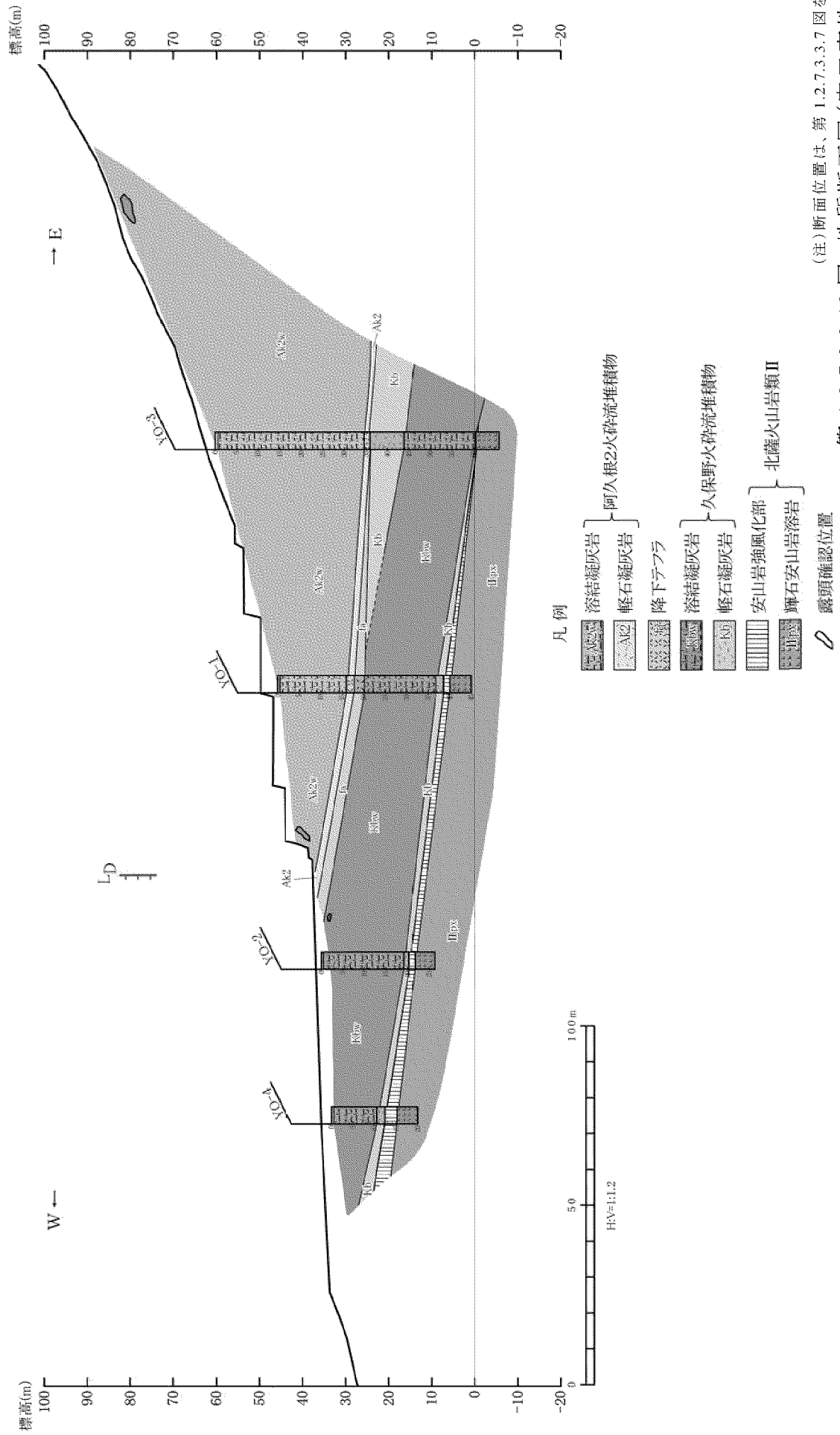
第 1.2.7.3.3.9 図 みやま池地点の地質図・ボーリング調査位置図



探針機 デジタルテレメトリ型 (JGI, G・DAPS-4)
 震源 油圧インパクト 1台 (JGI, JMI-200 II)
 加速式重錘落下, 重錘質量 200kg
 受振器 30Hz, 6個/グループ (I/O Sensor, SM-11)

標準収録仕様
 収録時間 2sec
 サンプル間隔 1msec
 発振点間隔 2.5m
 受振点間隔 5m

第 1.2.7.3.3.11 図(2) 反射法地震探査による深度断面とその解釈(2 測線)



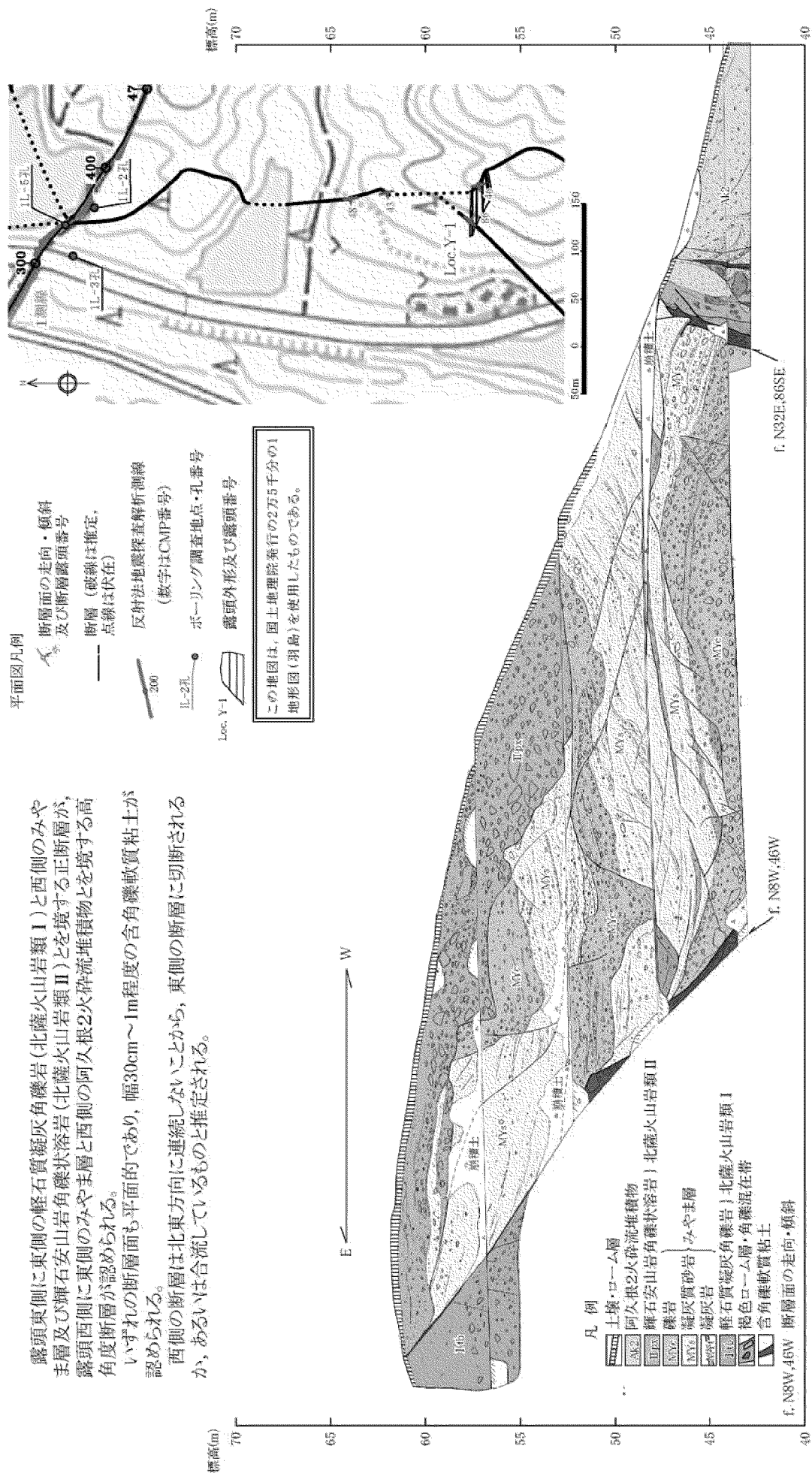
(注) 断面位置は、第 1.2.7.3.3.7 図を参照。

第 1.2.7.3.3.12 図 地質断面図 (寄田東地点)

露頭東側に東側の軽石質凝灰角礫岩(北薩火山岩類Ⅰ)と西側のみやま層及び輝石安山岩角礫状溶岩(北薩火山岩類Ⅱ)とを境する正断層が、露頭西側に東側のみやま層と西側の阿久根2火砕流堆積物とを境する高角度断層が認められる。

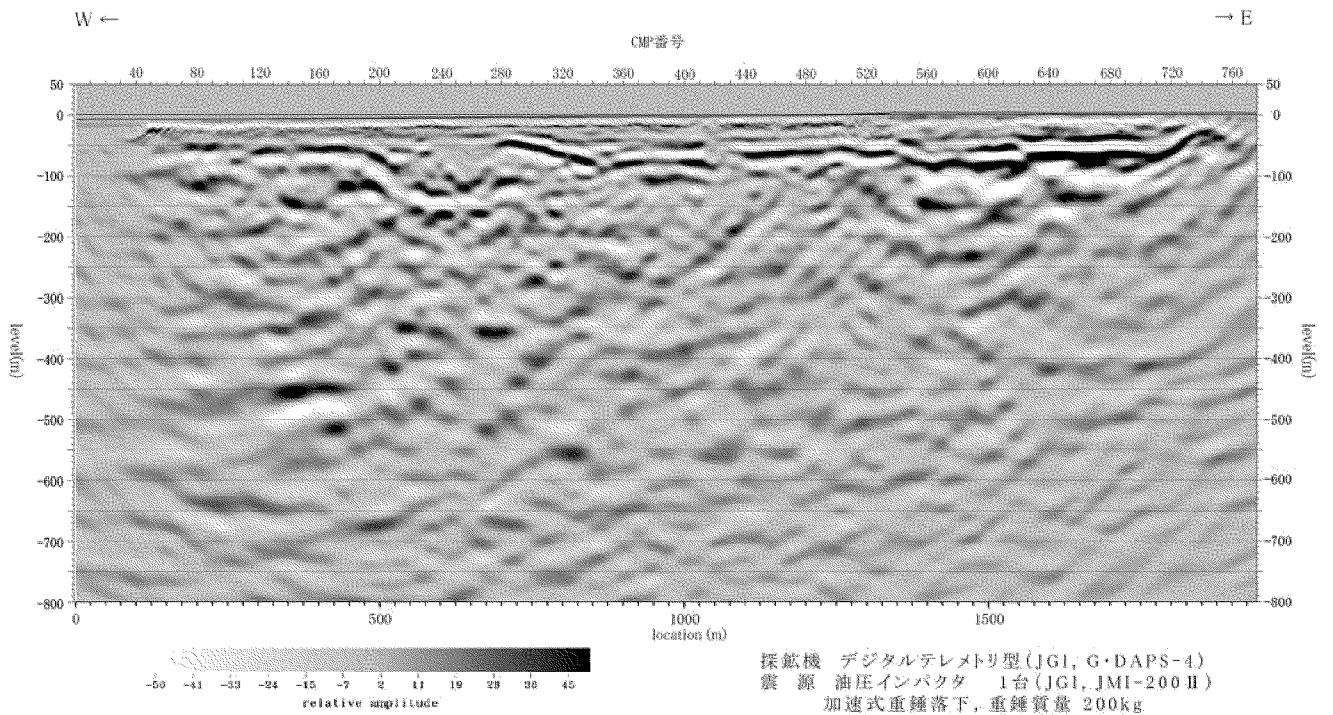
いずれの断層も平面的であり、幅30cm～1m程度の含角礫軟質粘土が認められる。

西側の断層は北東方向に連続しないことから、東側の断層に切断されるか、あるいは合流しているものと推定される。



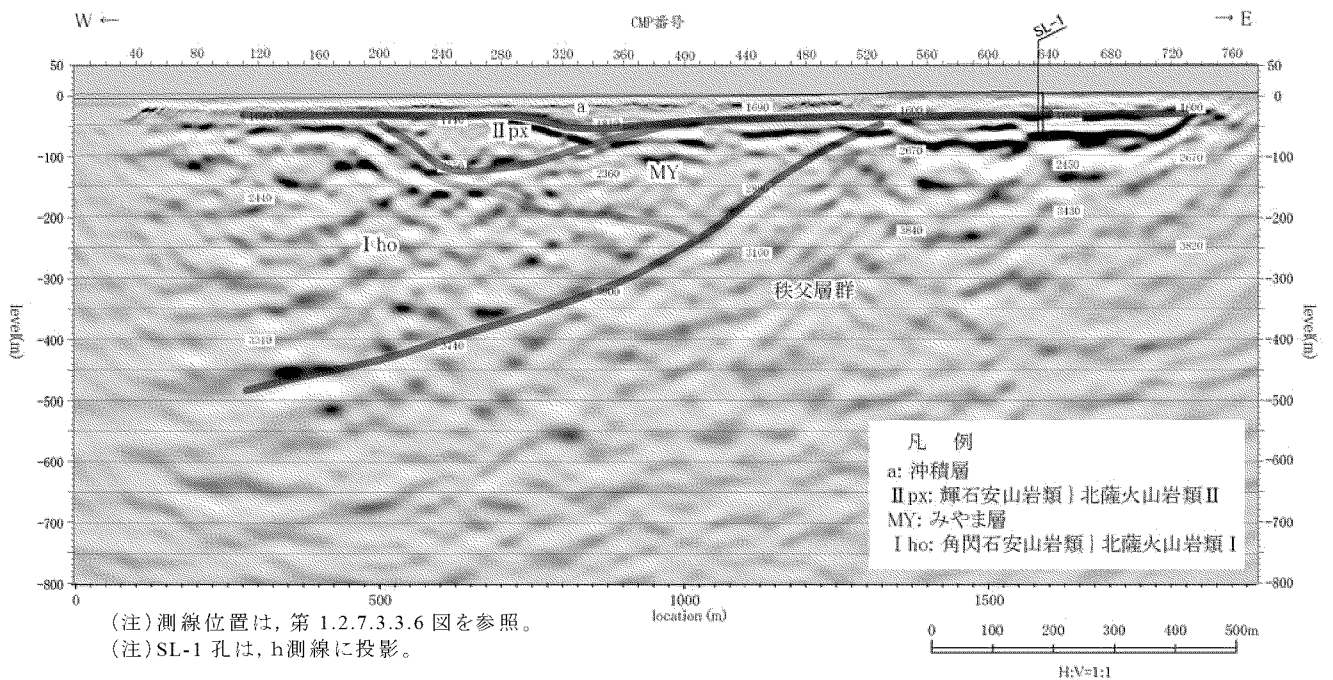
1.2.7.3-326

第 1.2.7.3.3.13 図 露頭スケッチ (Loc. Y-1, 薩摩川内市みやま池南方)



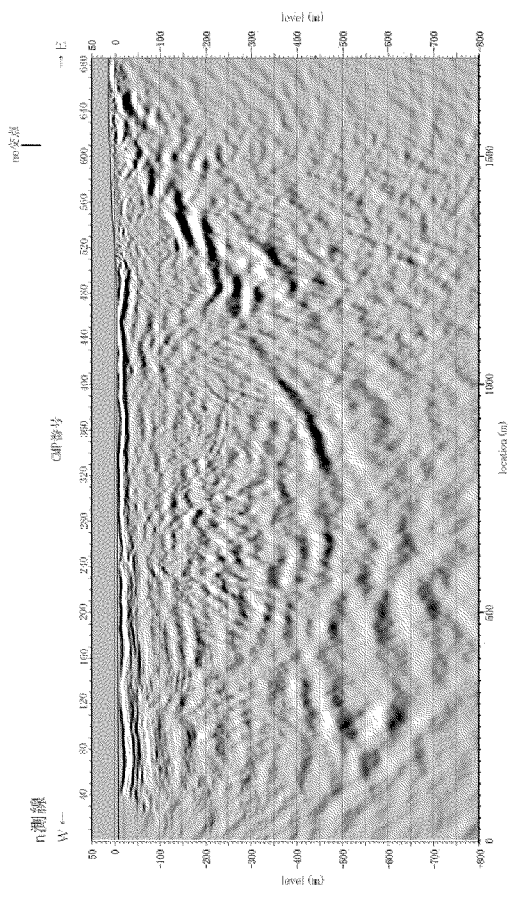
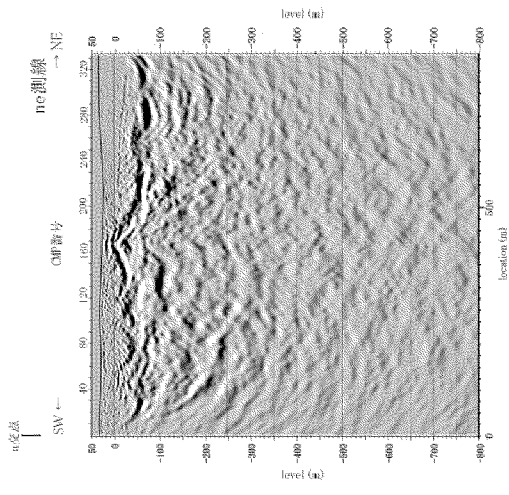
探鉱機 デジタルテレメトリ型 (JGI; G・DAPS-4)
 震源 油圧インパクト 1台 (JGI, JMI-200 II)
 加速式重錘落下, 重錘質量 200kg
 受振器 30Hz, 6個/グループ (I/O Sensor, SM-11)

標準収録仕様
 収録時間 2sec
 サンプル間隔 1msec
 発振点間隔 5m
 受振点間隔 5m

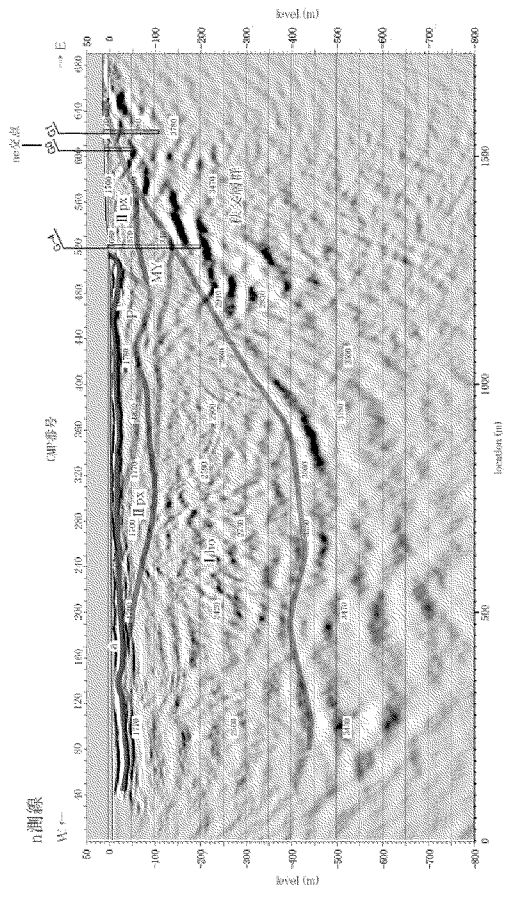
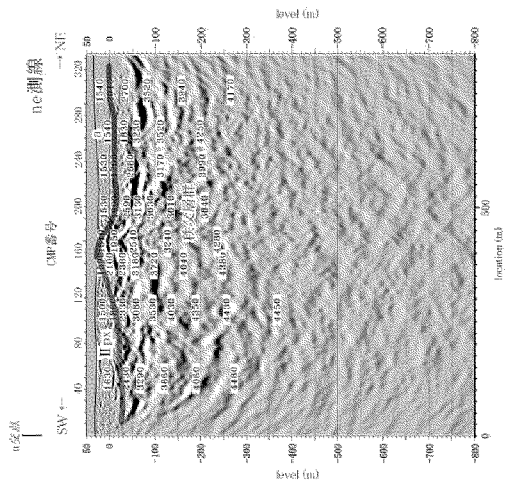


(注) 測線位置は, 第 1.2.7.3.3.6 図を参照。
 (注) SL-1 孔は, h測線に投影。

第 1.2.7.3.3.14 図 (1) 反射法地震探査による深度断面とその解釈 (h 測線)



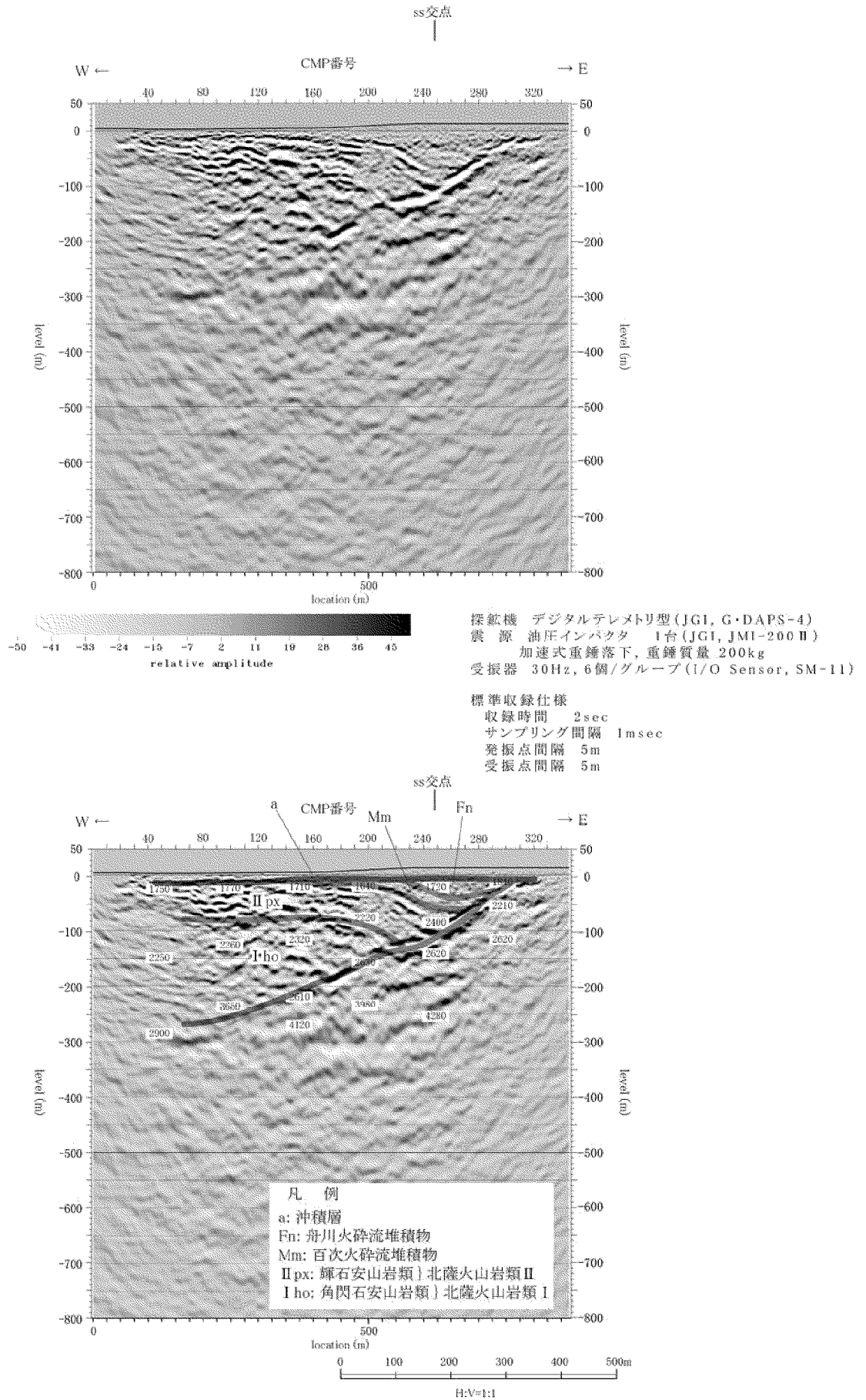
探査機 デジタルサismメトリック(GI, G-DAPS-4)
 震 源 油圧インパクター I号(GI, JM-200 II)
 加速度 垂直方向, 重量質量 200kg
 受信器 30Hz, 6軸/デジタル(I/O Sensor, SM-11)
 観測記録仕様
 収録時間 2sec
 サンプリング間隔 5m
 垂直方向間隔 5m
 受振点間隔 5m



凡 例
 n: 沖積層
 P: 阿久根火砕流堆積物など
 II PX: 阿久根山岩類
 MV: 多角岩
 I Ho: 阿久根山岩類
 北麓火砕岩類 I

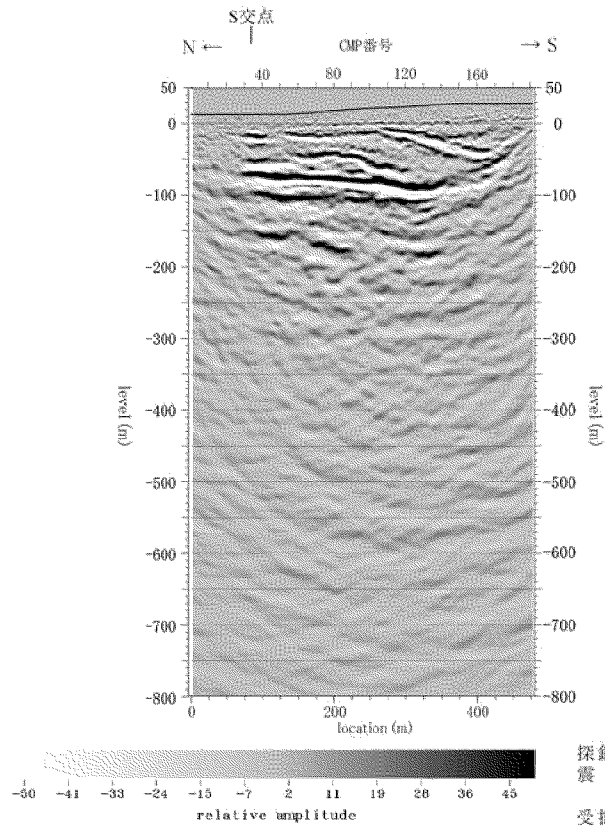
(注) 測線位置は、第 1.2.7.3.3.6 区を参照。
 (注) G-4 孔及び GI 孔は、n 測線に投影。

第 1.2.7.3.3.14 図 (2) 反射法地震探査による深度断面とその解釈 (n 測線、ne 測線)



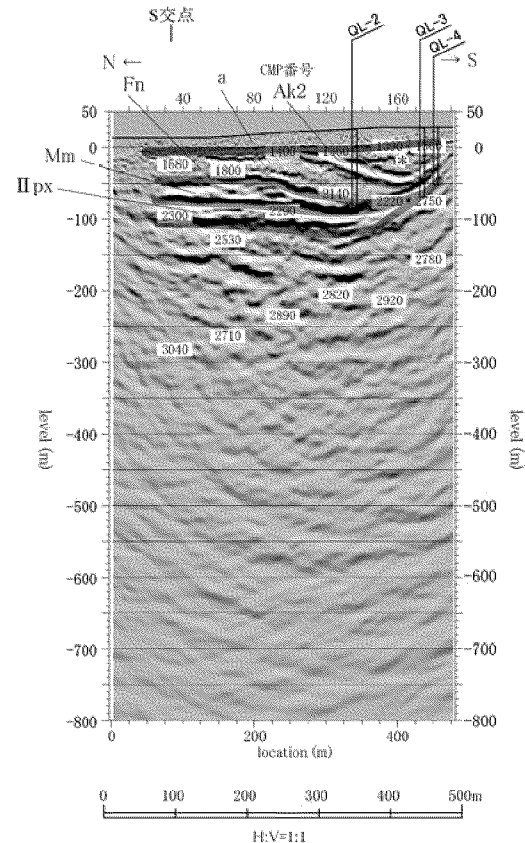
(注)測線位置は、第 1.2.7.3.3.6 図を参照。

第 1.2.7.3.3.14 図 (3) 反射法地震探査による深度断面とその解釈 (S 測線)



探鉱機 デジタルテレメトリ型 (JGI, G・DAPS-4)
 震源 油圧インパクト 1台 (JGI, JM1-200 II)
 加速式重錘落下, 重錘質量 200kg
 受振器 30Hz, 6個/グループ (I/O Sensor, SM-11)

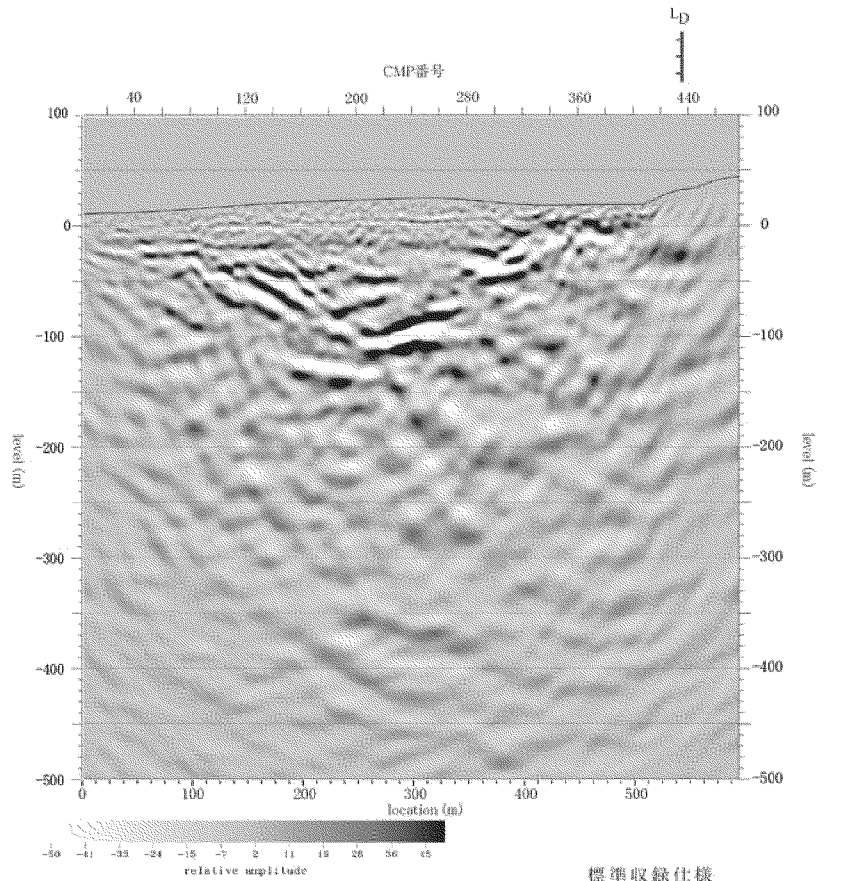
標準収録仕様
 収録時間 2sec
 サンプル間隔 1msec
 発振点間隔 5m
 受振点間隔 5m



凡例
 a: 沖積層
 *: 阿久根2火砕流堆積物などの二次堆積物
 Ak2: 阿久根2火砕流堆積物
 Fn: 舟川火砕流堆積物
 Mm: 百次火砕流堆積物
 II px: 輝石安山岩類 | 北薩火山岩類II

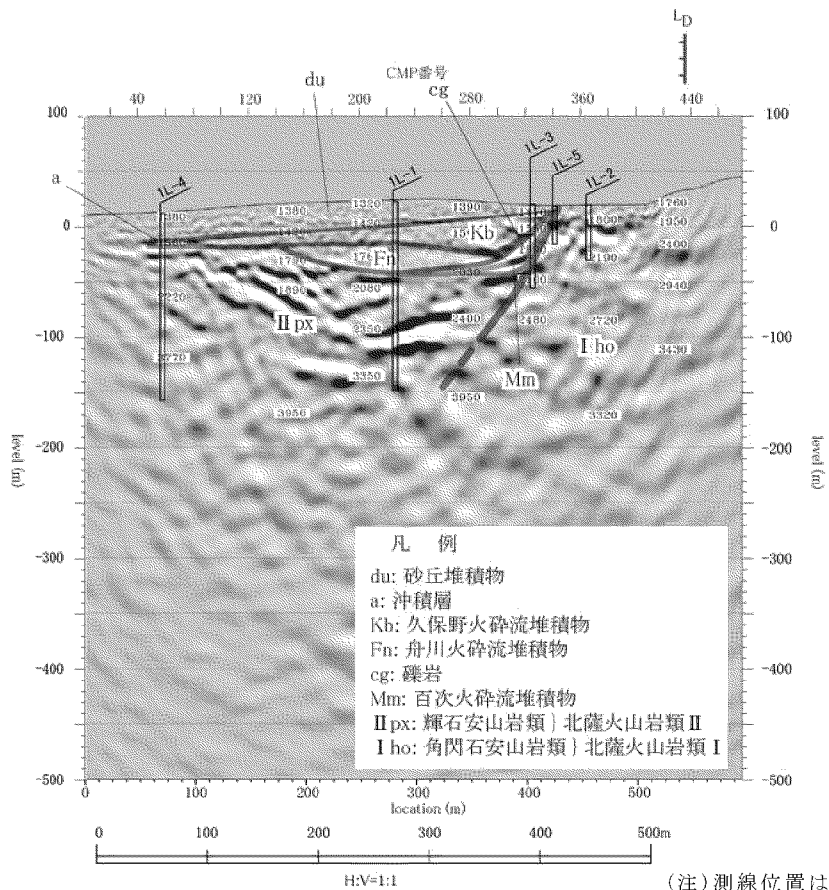
(注) 測線位置は, 第 1.2.7.3.3.6 図を参照。
 (注) 各ボーリング坑は, ss 測線に投影。

第 1.2.7.3.3.14 図(4) 反射法地震探査による深度断面とその解釈 (ss 測線)



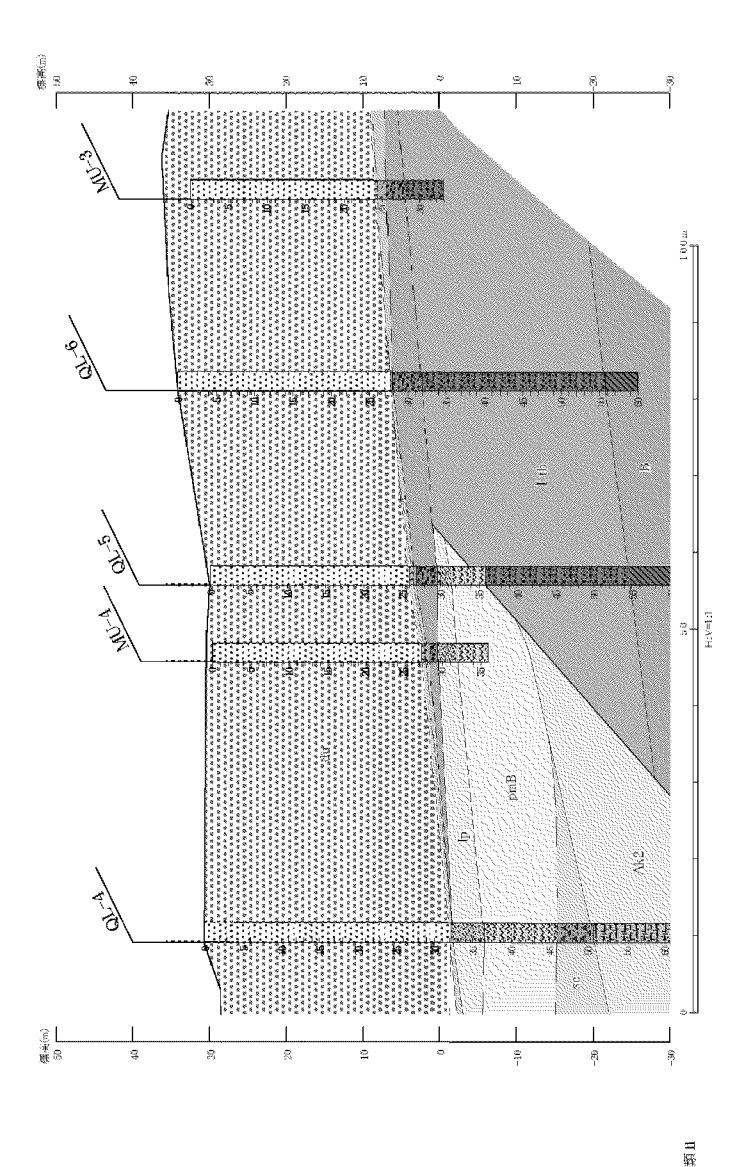
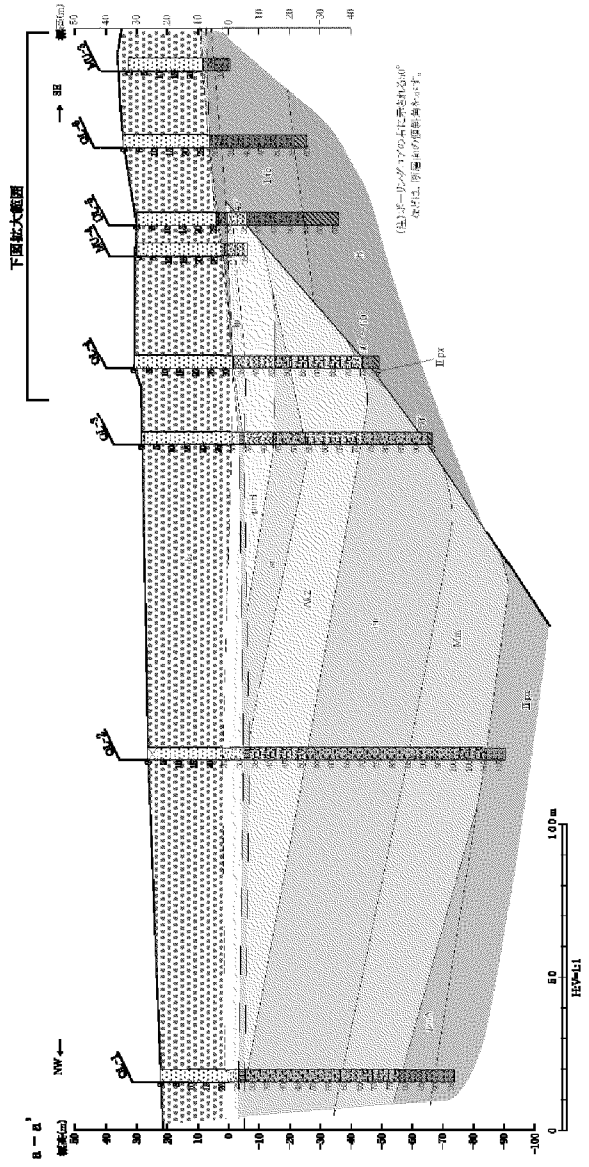
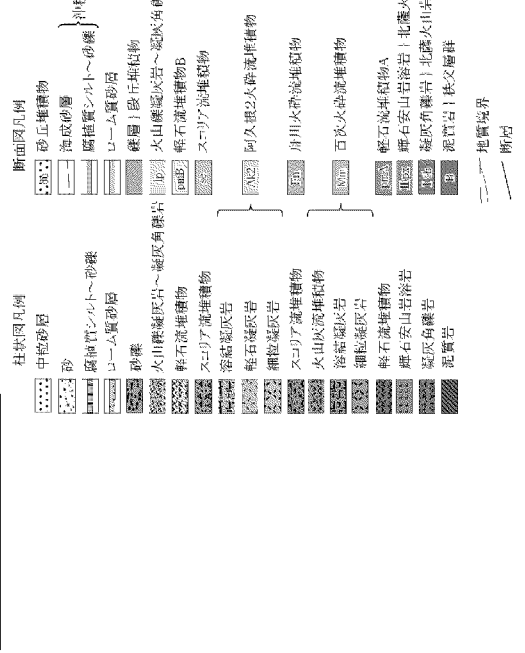
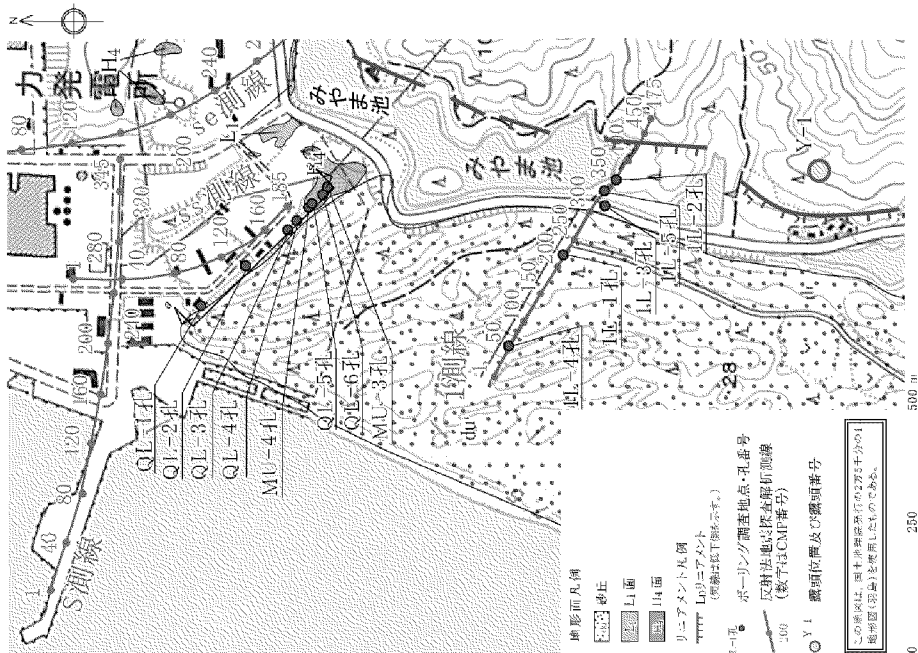
探鉱機 デジタルテレメトリ型 (JGI, G-DAPS-4)
 震源 油圧インパクト 1台 (JGI, JMI-200 II)
 加速式重錘落下, 重錘質量 200kg
 受振器 30Hz, 6個/グループ (I/O Sensor, SM-11)

標準収録仕様
 収録時間 2sec
 サンプリング間隔 1msec
 発振点間隔 5m
 受振点間隔 5m



(注) 測線位置は, 第 1.2.7.3.3.6 図を参照。
 (注) 1L-3 孔は, 1 測線に投影。

第 1.2.7.3.3.14 図(5) 反射法地震探査による深度断面とその解釈 (1 測線)



第 1.2.7.3.3.15 図 敷地南端部における地質断面図